

共同保證人カ各自同一分量ノ義務ヲ負擔セル場合ニノミ適用ス可キモノタルコト明クシテ而シテ法文中全部ノ辨濟ヲナシタル保證人ハ他ノ保證人ノ各自ニ對シテ均一部分ニ付キ求償スルコトヲ得ト規定シ全部ニアラスシテ自己ノ擔分ヨリ多ク辨濟シタルトキハ其超過額ノ爲メノ求償ハ他ノ共同保證人ノ間ニ均一ニ之ヲ分ツト規定シタル所以ノモノハ他ナラスル場合ト雖モ法律カ連帶ヲ認ムレハ認メ得サルニアラスト雖モ若シ連帶ヲ認ムルトキハ所謂訴訟ノ循環ナル結果ヲ生シ徒ラニ混雜ヲ生セシムルニ過キサルヲ以テ之ヲ認メサルコト、知ル可シ況ンヤ後ニ規定セルカ如ク連帶ノ求償ハ此求償權ヲ行フ保證人ニ共同保證人中遭遇スルコトアル可キ無資力ヲ豫防スルノ効力アラサルニ於テオヤ又分別求償權ヲ主張スル者カ債務ノ全部又ハ自己ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨濟シタルコトヲ要スルハ其辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ求償權アル可キ理由ナケレハナリ若シ夫レ共同保證人ノ一人ノミカ他ノ保證人ノ代理ヲ爲スモノダレハ即チ損害豫求權アルヘキモ共同保證人ノ一人ノミカ代理ヲ爲スモノニアラサ

レハ勿論相互ノ間ニモ代理ノ關係アルコトナシ故ニ共同保證人相互ノ間ニハ損害豫求權アルコトヲ認ム可カラサルコト明カナルヘシ
共同保證人相互ノ間ニ於ケル分別求償權ノ性質ニ付テハ前述スル所ニ因リテ畧ホ明瞭ナルコトヲ得ヘシト雖モ此分別求償權ヲ主張スルニハ法律ノ定ムル條件制限及區別ニ從ハサル可カラス然ラハ則チ其條件制限及區別トハ何ソヤ債權擔保編第三十條第三十二條第三十三條及第三十六條ニ規定スルモノ是ナリ此故ニ共同保證人ノ一人カ債權者ノ訴追ニ因リ債務ノ全部又ハ自己ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨濟スルニ當リ他ノ共同保證人ヲ其訴訟ニ參加セシメサルトキニハタトヒ參加セシムルモ抗辯方法ノナカリシ證據アルトキハ格別ナルモ他ノ共同保證人カ抗辯方法ヲ有シタリシ場合ナリセハ恰カモ保證人カ債權者ヨリ訴追ヲ受ケタルニ方リ抗辯方法ヲ有スル主タル債務者ヲシテ訴訟ニ參加セシムルコトヲ怠リタル場合ニ於テ其保證人カ債務者ニ對シ求償權ヲ失フト同シシ他ノ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ失フ可シ又共同保證人ノ一人カ右ノ辨濟ヲ爲シタルトキ有

益ニ他ノ共同保證人ニ其旨ヲ通知セザリシトキハ保證人カ辨濟ヲ爲シタルトキ主タル債務者ニ有益ニ其旨ヲ通知セザリシトキ其保證人カ債務者ニ對シ求償權ヲ失フト同シク他ノ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ失フ可シ其他共同保證人ノ一人カ債務ノ全部若クハ自己ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨濟若クハ其他ノ方法ニテ消滅セシメタル時ニアラサレハ他ノ共同保證人ニ對シテ代位訴權ナク又債權者ノ爲シタル登記ニ代位ヲ目的トシタル自己ノ條件附債權ヲ附記シタルニアラサレハ代位權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルヘキナリ之ヲ要スルニ保證人カ主タル債務者ニ對シテ自己ノ權利ヲ完フスルニ必要ナル手續ヲ盡クサ、ル場合ト同シク共同保證人ノ一人カ他ノ共同保證人ニ對シテ同様ナル手續ヲ爲サ、ルトキハ分別ノ求償權ヲ失フモノト知リテ可ナリ故ニ再ヒ茲ニ詳細ヲ講述スルノ必要ナシ然リ而シテ此分別求償權モ亦保證契約成立スルトキノ原因如何ニ因リテ區別シ主タル債務者ノ委託ニ因リ保證シタルト其不知ニテ保證シタルト其意ニ反シテ保證シタルトニ從ヒ保證人ノ求償權カ異様ナルカ如ク

此分別求償權モ亦同様ノ區別ヲ生ス可キナリ
 借又共同保證人中ノ一人カ債務ノ全部又ハ自己ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨濟シタル後ニシテ他ノ共同保證人ヨリ未ダ賠償ヲ受ケサル前ニ於テ其共同保證人中無資力トナリタル者アルトキハ其無資力トナリタル者ノ擔分ニ付テノ處分ハ如何債權擔保編第三十九條ノ規定ニ由リテ之ヲ見レハ共同保證人中無資力トナリタル者アルモ之ニ引受人アルトキハ辨濟シタル者ハ恰モ其無資力者ニ對シテ行フコトヲ得タルト同一ノ求償權ヲ引受人ニ對シテ行フコトヲ得ヘシ是レ蓋シ第七條第二項ニ於ケル規定ノ適用ニ外ナラサルカ故ニ別ニ説明ヲ俟ダスシテ明カナリ即チ引受人ハ保證人ニ對シテハ保證人カ主タル債務者ニ對スルト同一ノ地位ニ在ルモノタリ若シ又一人ノ保證人ノ爲メニ數人ノ引受人アルトキハ保證人ノ擔分ハ其引受人間ニ當然均一ニ分タレ從テ引受人ノ一人カ保證人ノ擔分ノ全部若クハ其一人ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨償シタルトキハ辨償シタル引受人ハ他ノ引受人ニ對シ均一ニ求償權ヲ有ス可シ然リ而シテ引受人アラサル場合

ニ於テハ無資力者ノ部分ハ債務ヲ辨濟シタル者ヲ加ヘ他ノ有資力ナル共同保證人ノ間ニ之ヲ分ツトハ即チ例ヘハ三萬圓ノ債務ニ付キ甲乙丙三人ノ保證人アリ甲者一人ニテ其債務ノ全部ヲ辨濟シタリトセンカ甲者ハ乙及ヒ丙ニ對シテ一萬圓宛ノ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキモ乙者ニシテ無資力トナリタル場合ニ於テハ甲者ハ單ニ丙者ニ對シテ一萬五千圓ヲ求償スルコトヲ得ルコト、ナリ乙者ノ擔分タリシ半額即チ五千圓ハ自己ノ負擔トナルナリ語ヲ換ヘテ云ヘハ乙者サヘ無資力トナラザリセハ甲者ハ二萬圓ヲ得タル筈ナルニ乙者カ無資力トナリタルカ爲メニ五千圓ノ損失ヲ蒙ルニ至ルモノト謂ハサル可カラス然ルニ論者往々此規定ヲ以テ第二十三條ノ本文ト對照スルトキハ矛盾ノ嫌ヒアルヲ免カレサルモノトセリ其理由トスル所ハ即チ第二十三條ノ本文ニ因レハ一ノ債務ニ付キ數人ノ保證人アルトキハ債務ハ當然其間ニ分タルモノニシテ若シ三萬圓ヲ三人ニテ保證セハ即チ一萬圓宛ノ保證ナリ故ニ佛國法ノ如ク分別ノ請求ヲ待チテ始メテ均一ナルニアラス既ニ債權擔保編ハ他ニ共同保證人アルヲ知ルト否

トチ問ハス苟モ保證契約ノ成ルト同時ニ債務ハ均一ニ分カタレタル者ト爲セルヲ以テ甲ハ一昨日乙ハ昨日丙ハ今日保證人ト爲ルモ常ニ三萬圓ヲ三人ニテ均一ニ負擔スルコト、ナリ此三人ノ保證人中無資力トナリタル者アルトキハ其無資力トナリタル者ノ擔分ニ付テノ損失ハ一ニ債權者ニ於テ負擔セサル可カラサルニアラスヤ然ルニ共同保證人中ノ一人カ辨濟ヲ爲シタルニ方リ他ノ共同保證人中無資力トナリタル者アルトキハ其擔分ハ債權者ノ損失ニ歸セスシテ他ノ有資力ナル保證人ノ損失ニ歸ストハ矛盾ト謂ハスシテ何ソヤト謂フニ在リ

然レトモ余ハ此規定ヲ以テ第二十三條ノ本文ニ含有スルモノト認ムルコト能ハサルナリ何トナレハ第二十三條本文ノ規定ハ共同保證人カ分別ノ利益ヲ拋棄セサル場合ニノミ適用スヘキモノニ過キスシテ其之ヲ拋棄シタル場合ニ適用スヘキモノニアラス而シテ共同保證人中ノ一人カ債務ノ全部若クハ自己ノ擔分ヨリ超過セル額ヲ辨濟シタルハ即チ其辨濟シタル保證人ハ分別ノ利益ヲ拋棄シタルモノナレハナリ然ラハ即チ此場合ニ於

テ共同保證人中無資力トナリタルモノアルトキハ其無資力トナリタル者ノ擔分ハ辨濟シタル者ノ損失ニ歸スルヲ以テ當然トナサ、ルヘカラス其譯如何ト云フニ辨濟シタル保證人ハ他ノ共同保證人各自ノ擔分ノミニ對シテ管理シタルモノナレハ其管理ヲ受ケタル者ニシテ無資力トナリタル以上ハ管理人ノ損失ニ歸ス可キハ普通ノ事務管理ノ場合ニ於ケル通則ナレハナリ然ルニ該條ニ於テ其無資力トナリタル者ノ擔分ヲ以テ獨リ辨濟シタル者ノ損失ニ歸セシメスシテ辨濟シタル者ヲ加ヘ他ノ共同保證人ニ分ツヘキモノトナシタルハ公平ナ期センコトヲ欲シテ普通事務管理ノ場合ニ於ケル通則ニ例外ヲ設ケタルニ外ナラス而シテ其無資力トナリタル保證人ニ數人ノ引受人アル場合ニ於テ其引受人ノ一人カ無資力トナリタル保證人ノ擔分ニ屬スル全部若クハ其一人ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨濟シタルトキ他ノ共同引受人中無資力トナリタルモノアル場合ニモ亦同様ノ規定ヲ適用スルコト、知ル可シ

倍又債務ハ全部若クハ自己ノ擔分ニ超過セル額ヲ辨濟シタル保證人カ他

ハ共同保證人ニ對シ前述ノ分別求償權ニ因リ求償ヲ爲シタル場合ニ於テ若シ未ダ主タル債務者ノ財産ノ檢索アラサルトキハ其求償ヲ受ケタル保證人ハ求償ヲ爲シタル保證人ニ對シ主タル債務者ノ財産ノ檢索ヲ求ムルコトヲ得可シ是レ畢竟代位ヨリ結果スルモノナリトス語ヲ換ヘテ云ヘハ求償ヲ爲シタル保證人ハ普通ノ場合ニ於ケル債權者ノ地位ニ立テ求償ヲ受ケタル者ハ普通ノ場合ニ於ケル保證人ノ地位ニ立ツモノナレハナリサレハ彼ト此トハ場合ヲ異ニスルニ過キサルヲ以テ求償ヲ受ケタル保證人カ此權利ヲ主張スルニハ普通ノ保證人カ債權者ニ對シテ檢索ヲ要求スル場合ト同一ノ制限及條件ニ從ハサル可カラサルハ當然ナリ所謂制限及條件トハ如何ト云フニ即チ第二十條及第二十二條ノ規定ニ係リ余ノ既ニ講了シタルモノニ屬スルカ故ニ茲ニ重ネテ講述スルノ必要ナカル可シ然リ而シテ此檢索ノ要求ハ保證人カ求償ノ訴ヲ受ケタル場合ニモ同様之ヲナスヲ得可キハ勿論タリ(第四十條)殊ニ又保證人ノ引受人ニ至リテハ其自カラ引受ケタル保證人ノ財産ニ付キ檢索ノ要求モ之ヲ爲スコトヲ得可キナ

リ何トナレハ引受人ニ於テ求償ヲ受クル場合ニ於テハ其引受セラレタル
 保證人ハ主タル債務者ノ地位ニ立ツモノナレハナリ
 然リ而シテ又債權者ノ地位ニ在ル者ハ債務者ノ地位ニ在ル者カ無資力ト
 ナリタル場合ニ於テ其清算ニ加入スルノ權利ヲ有ス可キハ勿論ナリト雖
 モ相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人中ニ無資力トナリタル者
 アルトキニ於テ各保證人ノ間ニ於ケル清算加入ノコトニ付テハ少シク其
 趣チ異ニスルモノアルヲ以テ債權擔保編ハ其第四十三條ニ之ヲ規定シ總
 テ連帶債務者ノ一人又ハ數人若クハ全部カ無資力トナリタル場合ニ債權
 者ノ有ス可キ清算加入ニ關スル規則ヲ適用スルモノトナシタレハ諸君ハ
 後ニ至リテ余カ連帶債務者ニ對スル債權者ノ權利ヲ講スル當時ニ其詳細
 ナ知ルコトヲ得可シ

二、擔保附帶ノ訴權

委任ヲ受ケテ保證人トナリタル者カ訴追ヲ受ケタルトキハ債權者ニ對シ
 テ擔保附帶ノ訴權アリトノコトモ余既ニ債務者ニ對スル保證人ノ權利ノ

債權者ト
共同保證
人ノ一人

コトヲ講述シタル當時ニ之ヲ説明シタレハ擔保附帶ノ訴權ノ何タルコト
 ハ既ニ明了ナリ而シテ債權擔保編ハ其第四十一條ニ於テ連帶シテ義務ヲ
 負擔シタル共同保證人又ハ不可分ナル債務ノ爲メニ義務ヲ負擔シタル共
 同保證人カ訴追ヲ受ケタルトキハ委任ヲ受ケテ保證人トナリタルモノカ
 訴追ヲ受ケタルトキト同シク擔保附帶ノ訴權アルコトヲ認メタリ然ラハ
 即チ此權利ハ何ニカ故ニ連帶ニテ義務ヲ負擔シタルカ又ハ不可分ナル義
 務ヲ約シタル共同保證人ニアラサレハ之ヲ有スルコトヲ得サルヤト云フ
 ニ連帶ニテ義務ヲ負擔シタルカ又ハ不可分ナル義務ヲ約シタル共同保證
 人相互ノ間ニ於ケル關係ヲ除クノ外總テ皆チ事務管理ノ規則ヲ適用シ被
 管理者チ利益シタル後ニアラサレハ管理者カ訴權ヲ有スルコトヲ得サレ
 ハナリ而シテ其詳細ナルコトニ至リテハ第二十九條ノ規定ニ就テ之ヲ知
 ルコトヲ得ヘシ

第二款 債權者ト共同保證人ノ一人トノ間ニ

主タル債務ニ關シ有リタル判決及自

對人擔保法

保證ノ效力 共同保證人間ノ保證ノ效力
 債權者ト共同保證人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ有リタル
 判決及ヒ自白ノ他ノ共同保證人ニ及ホスヘキ効果

トノ間ニ
主タル債
務ニ關シ
有リタル
判決及ヒ
自決ノ他
ノ共同保
證人ニ及
ホスヘキ
効果

白ノ他ノ共同保證人ニ及ホスヘキ効果

債權者ト共同保證人ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ有リタル判決ノ他ノ共同保證人ニ及ホス可キ影響ニ付テハ第四十二條第二項ニ於テ義務カ連帶ナルトキ外ハ他ノ共同保證人ヲ利スルコトヲ得ルモ害スルコトヲ得スト規定シタリ是レ即チ第二十六條ニ於テ債權者カ保證人トノ間ニ有リタル判決ハ債務者ヲ利スルコトヲ得ルモ之ヲ害スルコトヲ得スト規定シタルト同一ノ精神ニ基ツキタルナリ蓋シ共同保證人ハ既ニ述ヘタルカ如ク辨濟其他ノ點ニ付キ相互ノ間ニ代理ノ關係ナキカ故ニ代理ノ規則ヲ適用スルコトヲ得スシテ總テ事務管理ノ規則ヲ適用ス可キモノナリ然ルニ事務管理ノ規則ニ因レハ管理者ハ被管理者ヲ利スルコトヲ得ルモ害スルコトヲ得サルヲ以テ若シ債權者ト共同保證人中ノ一人トノ間ニ主タル債務ニ關シ有リタル判決ニ於テ其保證人カ勝ヲ制シタルトキ即チ例ヘハ債權者カ其保證人ニ對シテ主タル債務ノ履行ヲ請求シタルニ於テハ其効果ハ他ノ共同保證人ニモ及ホス可シト雖モ若シ敗ヲ取りタルトキハ其効果ハ他ノ

共同保證
人ノ一人
ニ對スル
時効中斷
又ハ付遲
滯ノ行為

共同保證人ニ及ホスコトナシ故ニ他ノ共同保證人ハ更ニ自己ノ有スル抗辯方法ヲ用ユルコトヲ得ヘキナリ又共同保證人ノ一人カ主タル債務ニ關シ債權者ニ對シ爲シタル自白ノ他ノ共同保證人ニ及ホス可キ効果ニ付テモ亦本法ハ其第四十二條ノ第二項ニ於テ義務カ連帶ナルトキノ外ハ他ノ共同保證人ヲ利スルコトヲ得ルモ害スルコトヲ得スト規定シタリ是レ即チ第二十八條第二項ニ於テ保證人カ債權者ニ對シテ爲シタル自白ハ委任又ハ連帶アル場合ニアラサレハ債務者ヲ利スルコトヲ得ルモ之ヲ害スルコトヲ得スト規定シタルト同一ノ精神ニ基キタルナリ而シテ其理由ニ至リテハ前ニ述ヘタル所ト異ナルコトナキカ故ニ茲ニ再ヒ説明スルノ必要ナカル可シ

第三款 共同保證人ノ一人ニ對スル時効中斷又ハ付遲滯ノ行為ノ他ノ共同保證人ニ及ホスヘキ効果

共同保證人ノ一人ニ對スル時効中斷又ハ付遲滯ノ行為ノ他ノ共同保證人ニ及ホ

對人擔保法

保證ノ效力 共同保證人間ノ保證ノ效力 共同保證人ノ一人ニ對スル時効中斷又ハ付遲滯ノ行為ノ他ノ共同保證人ニ及ホスヘキ効果

ノ他ノ共
同保證人
ニ及ホス
ヘキ効果

保證ノ消
滅直接ノ消

ス可キ影響ニ付テハ債權擔保編ハ其第四十二條第一項ニ於テ義務カ連帶ナルト
キノ外ハ他ノ共同保證人ニ對シテ更ニ何等ノ影響モ之ヲ及ホスモノニアラスト
規定シタリ是レ即チ第二十七條第二項ニ於テ保證人ニ對スル時効中斷又ハ付遲
滯ノ行為ハ保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ債務者ト連帶シテ義務ヲ負擔シタ
ルトキニアラサレハ債務者ニ對シテ効力ナシト規定シタルト同一ノ精神ニ基キ
タルナリ而シテ其理由ハ如何ト云フニ共同保證人ハ連帶ニアラサル已上ハ相互
ニ代理スルモノニアラサレハナリ

第三章 保證ノ消滅

第一節 直接ノ消滅

余カ既ニ述ヘタルカ如ク保證ハ契約ノ一種ニ外ナラサレハ普通ノ契約ヲ消滅セ
シムヘキ各種ノ原因ハ復タ保證ヲ消滅セシムルノ原因トナルヘキハ勿論タリ而
シテ此原因ニ依テ主タル契約ニ關係ナク保證ヲ消滅セシムルトキハ即チ直接ノ
消滅ナリ(第四十四條第一項)尤モ其原因中時ニ或ハ主タル債務ト保證トヲ同時ニ
消滅セシムル場合ナキニアラス然リ而シテ義務消滅ノ通常ノ原則ハ財産編第四

百五十條第一號乃至第九號ニ於テ明記スル所ナレトモ保證ノ更改免除相殺及ヒ
混同ニ付テハ財産編中特別ノ規定アルカ故ニ債權擔保編ハ其第四十四條第二項
ニ之ヲ明示シタリ本來此第二項中ニ示ス所ノ諸條ノ規定ハ特ニ保證ニ關係シテ
他ノ契約ニ關係ナキモノナレハ之ヲ財産編中ニ規定セスシテ債權擔保編中ニ規
定スルヲ以テ當然ナリトナスモ我カ法典カ却テ之ヲ財産編ニ讓リタル所以ノモ
ノハ他ナラス既ニ財産編ニ於テ義務消滅ノ原因ヲ規定スル已上ハ縱令保證義務
ノ消滅ノミニ付テノ特例タリトモ之ヲ財産編中義務消滅ノ規定中ニ挿入セサル
トキハ此規定ヲシテ完全ナラシムルコトヲ得サルヘシト認メタルカ故ニアラサ
ルハナシ而シテ余ハ財産編第四百五十條ニ示ス所ノ順序ニ從ヒ保證ノ消滅ニ關
係スル限リ其大要ヲ説明シ詳細ノコトハ財産編ノ講義ニ讓ルコト、ナスヘキナ
リ

一、辨濟

辨濟ハ主タル債務者ニ於テ之ヲ爲スモ保證人ニ於テ之ヲ爲スモ主タル債務
ト保證トヲ同時ニ消滅セシムルノ効果ヲ生ズ然リ而シテ保證人ヨリ之ヲ爲

對人擔保法 保證 保證ノ消滅 直接ノ消滅

シテ保證ノ消滅スルトキト雖モ一方ヨリ論スレハ直接ノ消滅ト云ハスシテ
 間接ノ消滅ト云フモ不可ナキカ如シ即チ例ヘハ一千圓ノ債務ヲ保證シタル
 場合ニ其保證人モ該債務ヲ辨濟シタルトキハ主タル債務ノ辨濟ト爲スモ亦
 保證義務ノ辨濟トナスモ不可ナキカ如シ故ニ若シ之ヲ主タル債務ノ辨濟ト
 ナストキハ保證ハ間接ニ消滅スルモノナレトモ若シ之ヲ保證義務ノ辨濟ト
 ナストキハ保證ハ直接ニ消滅スルモノナリ其結果ニ至テハ同一ナルヲ以テ
 實際上何レニスルモ不可ナキハ勿論ノコトナレトモ保證人カ辨濟スルノ點
 ヨリ觀察チ下ストキハ正サシク自己ノ義務ヲ免レンカ爲メタルコト明カニ
 シテ更ニ疑ヒモナキコトナレハ保證人ノ辨濟ハ直接ノ消滅トナス方適實ナ
 ルヘシ然レトモ主タル債務者ノ辨濟ハ保證ノ消滅ニ關シテハ直接ノモノナ
 ルコト固ヨリ論ナキナリ

二、更改

更改即チ舊義務ノ新義務ニ變更スルコトニ付テハ財産編第四百八十九條ニ
 定ムル所ナレトモ尙ホ保證人ト爲シタル更改ノコトニ付テハ特ニ財産編第

五百二條ニ規定セリ該條ノ規定ニ關シテハ少シ奇怪ノ感ナキヲ得ス何トナ
 レハ保證ヨリ生スル義務ハ本來各自義務ニ屬スルモノナルカ故ニタトヒ共
 同保證人アルモ別ニ特約ナキ以上ハ一人ノ保證義務ノ更改カ他ノ保證人ニ
 及ホス可キ理由ナシ又主タル義務ヨリ見レハ附從ノ義務ナルカ故ニ其附從
 ノ義務ヲ更改シタレハトテ主タル債務者ニ影響スヘキ理由ナキハ勿論タレ
 ハ法律ノ推定ヲ待ツノ必要ナカルヘケレハナリ法文ニ依レハ反對ノ意思ア
 ル證據アルトキハ保證義務更改ノ結果チ他ノ保證人又ハ主タル債務者ニ及
 ホスコトアルヲ想像シタルカ如シ是果シテ如何ナル場合ナルヘキカ特約ナ
 キニ斯ル場合アルモノトセハ合意カ第三者ニ及フノ結果チ生セサルヲ得サ
 ルヘキナリサレハ余ハ寧ロ本條ヲ置クノ必要ナキヲ主張スルノミナラス其
 之ヲ設ケタルカ爲メニ却テ人ヲシテ疑惑チ生セシムルノ害アルヲ信スルナ
 リソハ兎モ角モ保證ノ更改ハ新ナル保證義務チ生スルモ舊保證人ノ義務ハ
 其更改ト共ニ消滅スルモノナルヲ以テ舊保證人ニ取リテハ直接ニ保證消滅
 ノ原因トナルモノタルコト疑ヒチ容ル可カラス

三、合意上ノ免除

債權者カ合意ニ依リテ保證人ノ義務ヲ免除シタル場合ニ在リテハ其免除ヲ受ケタル保證人ハ義務ヲ免カルヘキハ當然ノコトニシテ合意上ノ免除カ保證消滅ノ直接ノ原因タルコト實ニ明白ナリトス財產編第五百十一條ニハ保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタルトキハ主タル債務者ハ其義務ヲ免カレズ他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カルトアレトモ債權擔保編第二十三條ニ所謂一人ノ債務者ニ數人ノ保證人アルトキハ其債務ハ當然其間ニ分タルトアルノ規定ヨリ之ヲ推セハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク各保證人カ債務者ニ對シテ負擔ス可キ擔分ハ法律上初メヨリ定マレルモノニシテ一人ノ保證人カ他ノ保證人ニ代ハリテ其擔分ヲ辨濟スルノ義務ナキコト勿論タル可シ果シテ然リトセハ保證人ノ一人ニ對シテ保證ヲ免除シタルトキハ他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル、ニアラスシテ他ノ保證人ハ初メヨリ其義務ヲ負擔スルモノニアラスト謂ハサル可カラズ初メヨリ負擔セサル所ノ義務ヲ免カル、コトア

リトハ奇怪ノ感ナキヲ得ス尤モ連帶ノ責任ヲ負擔セル場合ハ格別ナルヲ以テ財產編第五百十一條中ニハ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テ他ノ保證人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシムト規定シタリ即チ債權者ニ於テ自己ノ權利ヲ殊更ニ他ノ保證人ニ對シテ留保ストノ特約ヲ爲サ、ル以上ハ常ニ總テノ保證人ニ對シテ義務ヲ免除シタルモノトハナルナリ

四、相殺

債權者ト保證人トノ間ニ相殺ノ原因アルトキハ其相殺ニ因リテ直接ニ保證ノ義務ヲ消滅セシムルハ勿論ナリ而シテ相殺ハ其本體ヨリ論スルトキハ相互ニ債權者タリ債務者タルノ關係アル人ノ間ニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノナルニ拘ラス保證人カ相殺ニ因リテ保證ヲ消滅セシメントスルニハ常ニ自カラ債權者ニ對シテ有スル權利ノミナラス尙ホ主タル債務者カ債權者ニ對シテ有スル抗辯ヲモ其材料トナスコトヲ得ヘシ是即チ財產編第五百二十一條ノ末段ニ規定スル所ニシテ普通相殺ノ例外ナリ此例外ヲ生ス

ルニ至ル所以ノモノハ要スルニ保證人ト債務者トノ間ニハ代理及ヒ事務管理ノ規則ヲ適用スレハナリ

五、混同

保證義務ノ混同ハ保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續スル場合ニ生スルモノナリ而シテ相續ノ爲メ二者ノ權利義務カ合併スルトキハ保證ハ勿論之ニ附從シタル物上擔保モ亦從テ消滅ニ歸ス可シトハ財産編第五百三十八條第一項ノ規定スル所ニシテ其理由ニ至リテハ別ニ説明ヲ要セズ自ラ明了ナル可シ

六、履行ノ不能

履行ノ不能カ義務消滅ノ原因タルコトハ明カナレトモ保證ノ場合ニ於テ保證義務消滅ノ直接ノ原因トナルハ果シテ如何ナル場合ナルヘキカト云フニ斯ル場合ハ甚タ稀ナルコト勿論ナリト雖モ亦全ク之ナキニアラサル可シ即チ例ヘハ甲乙兩人アリ何レモ書家チ以テ天下ニ有名ナリ丙者アリ甲者ニ一ノ書チ依頼シタルニ當リ乙者之カ保證人トナリ甲者ニシテ若シ其義務チ盡

七五

サ、ルトキハ自カラ代ハリテ之カ責ニ任ス可キコトヲ約セリ然ルニ乙者ハ或ル事變ノ爲メニ兩手チ損シタルカ如キコトアリトセンカ是取リモ直サス履行ノ不能ト謂ハサル可カラス即チ此場合ニ於テハ保證人ニ限り履行不能トナリタルコトナレハ其履行不能ハ保證義務チシテ直接ニ消滅セシムル原因タルコト明カナル可シ

七、銷除

一般ニ銷除ノコトニ關シテハ財産編ハ其第五百四十四條以下ニ規定スト雖モ別ニ保證契約ニ付テノ銷除ノコトヲ規定セサル所以ノモノハ保證ノ場合ニ限リテ特別ノ規定ヲ要スルモノナキカ故ナリ蓋シ銷除ノ効果タル初メヨリ其義務ノナカリシモノトナスカ故ニ純粹ニ論スレハ之チ以テ保證消滅ノ原因トナスハ甚ダ其當チ得サルニ似タリ何トナレハ初メヨリアラサル所ノ義務カ消滅ス可キ理由ナクハナリ然レトモ銷除チ行ヒタル以後ノ効果ハ免モアレ其之チ行フマテハ義務ノ成立セルモノナレハ之チ以テ義務消滅ノ一原因トナスコトナラン而シテ債務者ニハ銷除ノ原因ナキモ保證人ニノミ此

對人擔保法 保證ノ消滅 直接ノ消滅

原因アルトキハ銷除カ義務消滅ノ直接ノ原因トナルコトアルヘキハ勿論ヲ

八、廢罷

廢罷ノコトニ關シテハ財産編第三百四十一條乃至第三百四十四條及ヒ第五百六十條ニ規定セリ廢罷モ亦銷除ト同シク初メヨリ義務ナカリシモノト同一ノ効果ヲ生スルモノナルカ故ニ純粹ニ論スルトキハ義務消滅ノ一原因ト謂フヲ得サルナリタトヒ又之ヲ義務消滅ノ一原因トナスモ廢罷カ保證義務消滅直接ノ原因トナル場合ハ余之ヲ想像スルニ苦シマサルヲ得ス

九、解除

解除ノコトハ財産編第四百八條同第四百九條及同第四百二十一條ニ規定セリ然レトモ是亦銷除、廢罷ト同シク初メヨリ義務ナカリシモノト同一ノ効果ヲ生スルモノナルカ故ニ純粹ニ論スルトキハ義務消滅ノ一原因ト謂フヲ得サルナリ然レトモ若シ之ヲ以テ銷除ノコトヲ講述シタル當時ニ述ハタルト同一ノ理由ニ由リ義務消滅ノ一原因トナスニ於テハ保證義務ヲシテ直接ニ

消滅セシムル一原因トナル場合ナシトセズ例ヘハ保證人カ債權者ニ對シ或ル債務ヲ保證スルニ自分カ東京ニ住居スル間保證ス可シト約シタルカ如キ場合ニ於テ保證人カ他ニ住居ヲ轉シタルトキハ即チ保證義務ハ直接ニ消滅スルカ如シ

已上九ヶノ原因ハ即チ通常義務ノ消滅スル原因ニシテ而シテ又保證ノ義務ノ直接ニ消滅スル原因トモナルモノナリ然ルニ尙ホ之ヲ外ニシテ保證ノ義務カ直接ニ消滅スル一ノ原因アリ然レトモ此原因ハ當然保證義務ヲシテ消滅セシムルニアラス請求ヲ待チテ初メテ消滅セシムルモノナリ即チ第四十五條ニ規定スル所ノ原因是レナリ該規定ノ依テ生スル所以ノモノハ他ナラス保證人カ初メ保證ノ契約ヲ爲スヤ主タル債務ニ擔保物アルトキハ其擔保物ニ信用ヲ置ク可キハ勿論假令初メニ擔保物ナキモ將來ニ於テ供スルコトアルトキ擔保物ニ信用ヲ置キ若シ他日自カラ主タル債務者ニ代リテ債務ヲ辨濟シタルトキハ債權者ニ代位シテ其擔保物ヲ以テ自カラ辨濟シタルモノ、賠償ヲ受ケンコトヲ期スルヤ明カナルノミナラス現ニ法律ハ保證人ニ代位權アルコトヲ明示スル已上ハ債權者モ亦保

證人ノ代位權ノ目的物トナルヘキモノヲ毀損減少スルカ如キコトヲ爲サ、ルノ
 黙諾アリトモ謂ハサル可カラス然ルニ債權者ニ於テ此黙諾アルニモ拘ラス代位
 權ノ目的物タルヘキモノヲ故意又懈怠ニテ毀損若シハ減少スルカ如キコトアル
 トキハ取りモ直サス保證人ノ代位權ヲ毀傷スルモノナルニ依リ保證人ヲシテ自
 己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得サシメサルヘカラサレハナリ保證人ニ於テ其免責
 ナ請求スルコトヲ得ル已上ハ從テ又保證人ノ引受人ニモ此權利ナカルヘカラサ
 ルハ勿論タリ是レ該條ノ第二項ヲ置キタル所以ナリ去リナカラ天災其他ノ事變
 ニ依リテ擔保物ノ毀損若シハ減少シタルトキハ保證人ニ免責ノ請求ヲナスノ權
 利ナカル可シ蓋シ天災其他ノ意外ノ事變ニ因リテ保證人ニ損害ヲ來タスコトア
 ルモ是債權者ノ所爲ヲ以テ其權利ヲ毀傷スルモノニアラサレハナリ
 唯茲ニ一ノ注意ス可キハ免責ヲ請求スルコトヲ得ヘキ度合是ナリ若シ第四十五
 條ヲ輕々ニ看過スルトキハ債務者ニ於テ擔保物ヲ毀損減少シタル度合ノ如何ニ
 拘ラス保證人ハ自カラ保證スル所ノ債務ノ全部ニ付キ免責ヲ請求スルコトヲ得
 ルカ如シト雖モ本來代位ノ性質タル余カ既ニ述ヘタルカ如ク保證人カ辨濟シタ
 夫

間接ノ消滅

第二節 間接ノ消滅

ル額ニ應スヘキモノニシテ例ヘハ百圓ノ債務ニ付キ保證人カ五十圓ヲ辨濟シタ
 ルトキハ即チ保證人ノ有スヘキ代位權ハ其五十圓ノ額ニ相當スルモノナラサル
 ヘカラス今之ヲ以テ本條ニ規定スル所ヲ推究セハ保證人カ免責ヲ請求スルコト
 ヲ得ルハ擔保物ノ毀損又ハ減少ノ度合ニ相當スルモノナラサルヘカラサルハ明
 カナル可シ此故ニ例ヘハ一千圓ノ債務ニ對シ不動産ノ相當價格アルモノヲ入レ
 テ債權者ニ擔保シタル場合ニ於テ債權者カ其擔保物ヲ毀損シタルニ因リ五百圓
 ノ價格ヲ減少シタリトセハ保證人ハ其減少ニ係ル五百圓ニ對スル免責ヲ請求ス
 ルコトヲ得ルニ止リテ一千圓ノ額ニ對シテ免責ヲ請求スルコトヲ得サルナリ而
 シテ其度合如何ハ固ヨリ裁判官ノ判定ニ任スル外他ニ途アルコトナシ

元來保證ハ從約ナルカ故ニ主タル債務ニシテ消滅スルトキハ保證モ亦從テ消滅
 セサルヘカラサルハ其性質上然ラサルヲ得サルモノタリ間接ノ消滅トハ即チ此
 場合ヲ云フナリ(第四十六條第一項)唯第四十六條第一項ノ規定ニハ例外ノ場合ア
 リトノコトハ注意スルヲ要ス其所謂例外ノ場合トハ何ソヤ第九條第二項ノ場合

對人擔保法 保證 保證ノ消滅 間接ノ消滅

是ナリ第九條ノ第二項ニハ無能力者ノ取消スコトヲ得ヘキ義務ト雖モ亦有効ニ之ヲ保證スルコトヲ得其義務カ裁判上ニテ取消サレタル後ト雖モ保證ハ其効力ヲ存ス但シ保證人カ其保證ノ際義務者ノ無能力ヲ知リタルトキニ限ルトアリ即チ此場合タル義務消滅ノ一原因トナス所ノ銷除ニ該當スルモノナリ然ルニ其銷除ニ依リテ主タル義務ハ消滅シタルモノナルニモ拘ラス保證人カ保證ノ際債務者ノ無能力ヲ知リタルトキハ保證ハ尙ホ其効力有スト云ヘハ保證ハ主タル義務消滅ノ總テノ原因ニ由リ間接ニ消滅スト云ヘル規定ノ例外タルコト言ヲ俟ダスシテ明カナリ

又第四十六條第二項ノ規定ハ皆チ財産編ノ規定ヲ再記シタルモノナルノミナラス余ハ既ニ前項ニ於テ其大要ヲ講述シタルヲ以テ再ヒ茲ニ贅セサル可シ

第四章 法律及裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

已上三章ニ述ヘタル所ハ法律上及裁判上ノ保證ニモ之ヲ適用ス可キモノニ屬シ本章述フル所ハ法律上及裁判上ノ保證ニノミ適用ス可キモノニ屬スルコト、知ル可キナリ然ルニ債權擔保編ニ於テ法律上及裁判上ノ保證ニノミ適用ス可キモ

法律及裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

ノトナシテ規定スル所ノモノハ第四十七條乃至第五十條ノ四箇條ニ過キサルニ第四十七條ハ法律上及裁判上ノ保證人モ亦普通保證人ニ要スル資格ト同一ノ資格ヲ要スルコトヲ規定シタルモノニシテ法律上及裁判上ノ保證ニ特別ナル規則ニアラス又第四十八條ハ裁判所カ保證人ヲ立ツ可キコトヲ命スルヲ得ルハ法律カ其之ヲ命スルノ權能ヲ附與シタル場合ニ限ルトノコトヲ規定シタルモノニシテ裁判上ノ保證其レ自身ニ關スル特別ナル規則ト謂フコトヲ得サルカ如シ是ニ由テ之ヲ見レハ本法ハ單ニ其第四十九條ニ裁判上ノ保證人ニ關シ又其第五十條ニ法律上及裁判上ノ保證人ニ關シ特別ノ規則ヲ設ケタルニ過キス抑モ一般ノ保證人カ檢索要求權ヲ有スルコトハ余既ニ之ヲ述ヘタリ然ルニ裁判上ノ保證人ニ限リテ此權利ヲ有スルコトヲ得セシメサル所以、モノハ他ナラス裁判上ノ保證ヲ必要トナス場合ハ常ニ裁判ノ執行ヲ要スル場合ナレハ其急速ヲ要スルコト勿論ナルニ保證人ヲシテ檢索ノ要求ヲ爲サシムルコトヲ許スニ於テハ時日ヲ遷延スルノ恐レアルヲ以テナリ例ヘハ民事訴訟法第五百五條ニ總テノ場合ニ於テ裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ債權者豫メ保證ヲ立ツルトキハ假執行ヲ爲シ得ヘキ

對人擔保法 保證 法律及裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

旨ヲ宣言スルコトヲ得債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立ツルコトヲ申立テタルトキハ債務者ノ申立ニ因リ債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲ爲サシメテ執行ヲ免カル、コトヲ許ス可シトアルニ因リテ裁判所ヨリ保證人ヲ立テセシメタル場合ニ本執行ヲ爲スニ當リ保證人ヲシテ檢索ヲ要求セシムルトキハ時日ヲ遷延シ執行ノ時機ヲ失スルノ恐レアルカ如シ裁判上ノ保證人ニシテ既ニ檢索要求權ヲキモノトナス已上ハ又從ツテ其保證人ノ引受人モ其權利ヲ有スルコトヲ得サルハ勿論タル可シ裁判上ノ保證人及其引受人ヲシテ財産檢索ノ利益ヲ有セザラシムルノ理由右ノ如シト雖モ本條規定スル所ハ單ニ保證人及其引受人カ債務者ノ財産ニ付テノ檢索要求權ニ關スルモノニシテ引受人カ保證人ノ財産ニ付キ檢索ヲ要求スルコトニ付テハ此中ニ包含セサルカ如シト雖モ法文ノ精神ヨリ之ヲ推究セハ引受人ハ債務者ノ財産ノミナラス保證人ノ財産ニ付テモ檢索ヲ要求スルコトヲ得サルモノトナサ、ル可カラズ現ニ佛國民法ニハ其第二千四十三條ニ此コトヲ明記セリ(第四十九條)又保證人ノ求償權ハ保證發生ノ原因如何ニ因リテ或ハ代理ノ規則或ハ事務管理ノ規則ヲ適用シ各々其範圍ニ差異アルコトハ余既ニ之

ヲ述ヘタリ然ルニ法律上及裁判上ノ保證人ハ其擔保ノ求償ニ關シテハ常ニ之ヲ債務者ノ代理人ト見做ス所以ノモノハ別ニ法律上ノ理由アルニアラスシテ立法上斯ル保證人ヲ獎勵セシムルコトヲ期シタルニ外ナラス尤モ是單ニ保證ノ求償ニ付テノミノ特別法ニシテ其他ノコトニ至リテハ矢張保證發生ノ原因如何ニ因リテ適用スル所ノ規則ヲ異ニスルコト、知ル可キナリ(第五十條)

第二編 連帶

第一章 連帶ノ性質

連帶ナル義務ノ體様ハ往々ニシテ連合全部又ハ不可分ナル義務ノ體様ト混淆シ易キカ故ニ豫メ此等義務ノ體様ト連帶ナル義務ノ體様トノ差異ニ付キ多少ノ說明ヲ要ス可シ

一、連合ト連帶トノ別

連合ナル體様ノ義務ニ付テハ各債權者ハ自己ノ持分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得ス又各債務者ハ自己ノ部分外ニ訴追ヲ受クルコトナシトハ財産編第四百三十八條ノ規定スル所ナリ此規定ニ因テ之ヲ見レハ一ノ取引ニ付キ當事

者數名アリテ其各當事者ハ自己ハ持分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得ス又自己ハ部分外ニ訴追ヲ受クルコトナキトキハ其義務ノ體様ヲ稱シテ連合トハ謂フナリ而シテ連合ナル義務ノ體様ハ債權者一人ニシテ債務者數人ナル場合或ハ債務者一人ニシテ債權者數人ナル場合ニ成立スルコトアリ或ハ又債權者及債務者共ニ數人ナル場合ニ成立スルコトアリ債權者ノ數人ナルトキハ即チ債權者ノ連合ニシテ債務者數人ナルトキハ即チ債務者ノ連合ナリ債權者及債務者共ニ數人ナルトキハ雙方共ニ連合ナリ

然リ而シテ連合義務ノ性質ニ於ケル結果ヨリ見レハ債務者一人ニシテ債權者數人ナル場合及債權者一人ニシテ債務者數人ナル場合ニハ連合ナル當事者ノ數ニ從ヒ各別ナル取引ノ成立スルモノトナスモ不可ナキカ如シ例ヘハ丁者アリ甲乙丙ノ三人ニ對シテ一ノ債務ヲ負ハンカ即チ其取引ハ丁及甲丁及乙丁及丙ノ三箇トナルヘシ若シ甲乙丙ノ三人丁ナル一人ニ對シテ一ノ債務ヲ負ハンカ即チ其取引ハ甲及丁乙及丁丙及丁ノ三箇トナルカ如シ蓋シ數人ノ當事者相互ノ間ニハ何等ノ關係モ之ナケレハナリ債權者及債務者共ニ

數人ナル場合ニ在リテモ債權者及債務者ノ員數同一ニシテ各債權者ノ債權額及債務者ノ債務額モ亦各々同一ナルトキハ其債權者ハ何レノ債務者ヲ訴追スルモ妨ケナシト雖モ取引ノ數ニ至リテハ矢張り連合セル當事者ノ數ト同シカルヘキハ明カナリ然レトモ債權者及債務者ノ員數ハ必スシモ同一ナルモノニアラサルノミナラス其債權額若クハ債務額ノ如キモ亦必スシモ同一ナルモノニアラス時ニ或ハ員數ハ同一ナルモ債權若クハ債務ノ額ノ同一ナラサルコトアルヘク或ハ員數及債權若クハ債務ノ額共ニ同一ナラサルコトアルヘキカ故ニ當事者間ニ複雑ナル關係ヲ生スルコトナシトセス員數同一ニシテ債權若クハ債務ノ額同一ナラサルトキトハ例ヘハ甲乙丙ノ三人各三百圓ヲ出金シテ之ヲ二百圓三百圓四百圓ノ割合ニテ丁戊己ノ三人ニ貸與シタルカ又ハ甲乙丙ノ三人二百圓三百圓四百圓ノ割合ヲ以テ出金シ三百圓宛丁戊己ノ三人ニ貸與シタルカ或ハ甲乙丙ノ三人二百圓三百圓四百圓ノ割合ヲ以テ出金シ百圓三百圓五百圓ノ割合ヲ以テ丁戊己ノ三人ニ貸與シタル場合ノ如キ是レナリ又員數及債權若クハ債務ノ額共ニ同一ナラサルトキト

ハ例ヘハ甲乙二人二百圓六百圓ノ割合ヲ以テ出金シ百圓三百圓四百圓ノ割合ヲ以テ丙丁戊ノ三人ニ貸與シタル場合ノ如キ是レナリ是等ノ場合ニ於テハ取引ノ數必スシモ連合セル當事者ノ數ト同シカラスシテ其員數外ニ尙ホ一箇若クハ二箇ノ取引ヲ生スルノ結果トナル可シ即チ前例甲乙丙ノ三人各々三百圓ヲ出金シテ之ヲ二百圓三百圓四百圓ノ割合ニテ丁戊己ノ三人ニ貸與シタル場合ニ就テ見ルモ其取引ハ甲及丁甲及己乙及戊丙及己トナルカ如シ去リナカラ其取引ノ數カ連合セル當事者ノ數ト同一ナルト否トニ拘ラズ連合ナル體様ハ數箇ノ獨立セル權利若クハ義務カ集合シテ一箇ノモノトナリタルコト、看做シテ更ニ差支ナカルヘシ

右ニ反シテ連帶ナル體様ノ義務ニ付テハ余カ後ニ至リテ説明スルカ如ク各債權者又ハ各債務者ハ自己ノ名ヲ以テ自己ノ部分ハ爲メニスルト他人ノ名ヲ以テ他人ノ部分ノ爲メニスルトト問ハス債務ノ全部ニ付履行ヲ求ムルコトヲ得ヘク又訴追ヲ受クルコトアルヘキナリ此故ニ例ヘハ甲者アリ乙丙丁ノ三人ニ連帶ニテ金三千圓ヲ貸與シタルトセンカ甲者ハ乙丙丁ノ内一人ニ

對シテ債權ノ全部ナル三千圓ヲ請求スルコトヲ得ヘク若シ又乙丙丁ノ三人連帶ノ債權者ニシテ甲一人債務者ナリトナスモ乙丙丁ノ三人ハ各々債權ノ全部ナル三千圓ヲ甲ナル債務者ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘシ從テ其債務者ハ之カ請求ニ應セサルヘカラサルナリ是ヲ以テ學者或ハ連帶ナル體様ヲ連合ナル體様ノ例外トナセリ

二、全部ト連帶トノ別

全部ナル體様ノ義務ニ付テハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シテ債務ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ヘシ從テ債務者ノ各自ハ其請求ニ應セサルヘカラサルハ義務アルモ債務者各自ノ間ニハ代理ノ關係アルコトヲ認メストハ第七十三ニ於ケル規定ノ精神ナリ是ニ由テ之ヲ見レハ債務者ノ各自カ債務ノ全部ヲ負擔スルノ義務ヲ負フモ其債務者間ニ代理ノ關係ヲ認メサルトキハ其義務ハ體様ヲ稱シテ全部トハ謂フナリ此故ニ例ヘハ甲乙丙ノ三人丁ニ對シテ全部ノ體様ニテ三千圓ノ債務ヲ負ヒタル場合ニ於テ債權者タル丁ハ甲乙丙ノ三人ヲ同時ニ訴追シテ其債務ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘク或ハ又甲乙丙

ノ三人ノ内一人ヲ訴追スルコトヲ得ヘシ而シテ其訴追ヲ受ケタル一人ハ債權者ナル丁ニ對シテ債務ノ全部ヲ辨濟スルコトアルモ他ノ債務者トノ間ニハ代理ノ關係ナクシテ單ニ事務管理若クハ代位ノ訴權ニ因リ其擔分ヲ請求スルコトヲ得ルニ過キサルノミ然レトモ此所謂全部ナル體様ノ義務ニ付テハ債權者ハ債務者ノ一人ニ對シテ其債務ヲ請求スルカ又ハ債務者ノ總員ニ對シテ之ヲ請求スルカノ二途アルニ止マリテ債務者ノ幾部ニ對シテハ請求スルノ權ナキヤ否ヤニ至リテハ法文中之ヲ明定セサルカ故ニ甚々曖昧ナリト雖モ第七十三條但書ニ於ケル規定ノ精神ヨリ推定セハ裁判官ハ債務者ノ總員若クハ其一人ニ對シテ義務ノ履行ヲ命スルコトヲ得ヘシ從テ債權者モ亦債務者ノ總員若クハ其一人ニ對シテ訴追スルコトヲ得テ其幾部ニ對シテハ右ノ如キ權利ナキカ如シ尙ホ詳細ハ後ニ至リテ講述スル所アル可シ

三、不可分ト連帶トノ別

不可分ナル體様ノ義務ハ連帶ナル體様ノ義務ト區別スルコト頗ル難シ蓋シ不可分義務ノ性質ニ付テハ財産編第四百四十一條乃至第四百四十三條ヲ以

テ之ヲ明カニセリ要スルニ一個ノ義務ヲ履行スルニ當リテ一部ノ履行ヲ許サ、ル性質ノ體様タルニ外ナラス然ルニ不可分ニハ性質上不可分ナルモノト任意上不可分ナルモノトノ二種アリ性質上ノ不可分ハ義務ノ目的カ有形的ニモ亦無形的ニモ分割履行スルコトヲ得サル場合ニ存在シ任意上ノ不可分ハ義務ノ目的ハ分割スルコトヲ得ルモ當事者ノ意思ヲ以テ分割履行スヘカラサルモノトナシタル場合ニ存在スルモノトス之ヲ例セハ一個ノ書類ヲ著述スルノ義務ヲ數人ニテ負フトキハ其義務ノ體様ハ性質上ノ不可分タルヘシ何トナレハ其著述ヲ結了セサルトキハ初ヨリ着手セサルト同様ニシテ有形的ニモ分割スルコトヲ得サレハナリ又一個人ノ家屋ヲ建設セント欲スル人ニ一個ノ土地ヲ讓リ渡スニ當リ其義務ノ目的タル平地ハ同性質可分ノモノニ屬スルヲ以テ一部ノ履行ヲ許スヘキモ若シ買主ニシテ其土地ノ全部ノ讓リ渡シヲ受クルニアラサレハ家屋建築ノ目的ヲ達スルコトヲ得サレハ其義務ハ任意上ノ不可分タル可シ然ラハ即チ此所謂不可分ナル體様ハ連帶ナル體様トノ間ニ如何ナル區別アルヘキヤト云フニ兩ツナカラ互ニ相類似セ

ルモノニシテ而シテ互ニ關鍵スルモノト謂ハサルヘカラス即チ性質上ノ不可分義務ニ於テ債權者カ債務者ノ一人ニ對シ義務ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ルハ單ニ義務ノ目的カ其性質上分割履行ヲ許サ、ルニ在リ連帶義務ニ於テハ義務ノ目的ノ分割及履行ヲ許スモノナルモ債權者ハ債務者ノ一人ニ對シテ全部ノ請求ヲナスコトヲ得ヘシ又任意上ノ不可分カ連帶ト最モ關鍵セルコトハ第八十八條ニモ受方ナルト勸方ナルトヲ問ハス任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ勸方ノ連帶ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限り債務者又ハ債權者ノ間ニ連帶ハ効力ヲ生セシムトアルニ因リテ之ヲ見ルモ明カナリスノ如ク夫レ連帶ト不可分トハ相類似シ互ニ關鍵スルモノナルモ其効力ニ至リテハ相互ノ間大ニ差異アルヲ見ル可シ例ヘハ連帶義務者ノ一人死亡シ之カ相續人數人アルトキハ義務ハ其各相續人ニ分割セラレ各自カ相續シタル部分ニ付テノミ訴追セラルヘキモ其義務ニシテ不可分ナルトキハ相續人ノ各自カ全部ニ付キ訴追セラルヘシ其他連帶ニ在リテハ一部ノ相殺ヲ許スコトアルモノ不可分ニ在リテハ之ヲ許スコトヲ得サルカ如キ是ナリ尙ホ

詳細ハ後ニ至リテ講述スル所アルヘシ

今夫レ佛國其他諸國ノ法典ニ依ルニ連帶義務ノコトハ民法義務編即チ我民法ノ財産編第二部ニ該當スル所ニ規定スルヲ通常トナス是レ他ナラス義務ノ點ヨリ觀察スルトキハ連帶モ亦義務ノ體様ノ一種ニ外ナラサレハナリ我民法ニ於テモ財産編第二部中全ク之ヲ規定セサルニアラスト雖モ唯二三ノ原則アルノミニシテ其性質効力原因等ノコトニ至テハ總テ皆之ヲ債權擔保編中ニ規定セリ蓋シ連帶ハ義務ノ體様ナルモ連帶者間ニ在リテハ互ニ擔保スルノ性質アルヲ以テノ故ナルヘシ然ルニ連帶ニハ義務者ノ連帶アリ又權利者ノ連帶アリ義務者ノ連帶ハ連帶者間ニ在リテ互ニ擔保スルノ性質アルヲ認ムルヲ得ヘシト雖モ權利者ノ連帶ニ至テハ余ハ更ニ擔保ノ効用ヲ發見スルコト能ハサルナリ人或ハ曰ク債權者ト債權者ト互ニ代理ヲ爲ス已上ハ若シ債權者ノ一人カ他ノ債權者ノ心付カサルトキニ債務者ニ對シ時効ヲ中斷シタル場合ノ如キ大ニ他ノ債權者ヲ利スルカ故ニ擔保ノ効用ヲ見ルニ足ルヘシト成程斯ノ如キ場合ニ在リテハ債權者ノ一人カ時効ヲ中斷シタルカ

爲メニ他ノ債權者ハ不測ノ損失ヲ免カル、ヲ得ヘキモ此利益ハ擔保ナルニ
 アラスシテ債權者自カラ自己ノ權利ヲ保護シタルノ結果タルノミ債權者ノ
 連帶ハ獨リ互ニ擔保スルモノニアラサルノミナラス却テ頗ル危險ノ憂ヘア
 ルモノタルハ爭フヘカラス何トナレハ相互ニ代理スルノ効果ヨリ債權者ノ
 一人カ債務全部ノ辨濟ヲ受ケテ獨リ自カラ流用スルノ恐アレハナリ是以
 テ債權者ノ連帶ハ實際ニ於テ殆ト之ナカルヘキハ勿論縱令之アルモ此種ノ
 連帶ノコトヲ債權擔保編中ニ規定スルニ至リテハ全ク其當ヲ得サルコト疑
 ヒナシ思フニ債務者ノ連帶ヲ擔保トシテ債權擔保編中ニ規定シタルヨリ之
 ニ類セル債權者ノ連帶ヲモ擔保ノ効用ナキニ拘ラス便宜上共ニ本法中ニ規
 定シタルモノナラン歟而シテ債權擔保編中債務者ノ連帶ニ關スル規定ノ後
 ニ置キタルハ債權者連帶ノ場合ノ甚タ少ナキト債權者ノ連帶ハ擔保ノ効用
 ナキニ因ルモノナルヘシ殊ニ又債權擔保編ニハ債務者間及債權者間ノ連帶
 ノ總則トシテ第五十一條ヲ置キタルトモ此規定ハ更ニ何等ノ必要モ之ナキ
 ノミナラス既ニ財産編第四百三十八條第三項ニ連帶義務ノ性質ヲ規定セル

債務者間ノ連帶ノ性質及原因
 債務者間ノ連帶ノ性質
 債務者間ノ連帶ノ性質

已上ハ右ノ規定ハ全ク不用ニ屬スルヲ知ルヘシ只法文中受方連帶トアルハ
 數人ノ債務者カ連帶シテ義務ヲ負フヲ謂ヒ勸方連帶トアルハ數人ノ債權者
 カ連帶シテ權利ヲ有スルヲ謂フナリ

第二章 債務者間ノ連帶

第一節 債務者間ノ連帶ノ性質及原因

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質

債務者間ノ連帶ノ性質ニ付テハ債權擔保編ハ其第五十二條ニ債務者間ノ連帶ト
 ハ共同債務者間ノ共通ノ利益ニ於テモ互ニ代理シ又債權者ノ利益ニ於テモ互ニ
 代理スル性質ハ義務ノ體様ヲ云フコトヲ明カニセリ然ラハ則チ共同債務者ノ共
 通ノ利益ニ於テ互ニ代人ヲラシムルハ如何ナルコトナリヤト云フニ債務者ノ全
 體カ義務ヲ履行セサルニ依リ其内ノ一人カ履行スルトキハ連帶債務ハ消滅ニ歸
 スルヲ以テ他ノ債務者即チ義務ヲ履行セサル債務者ノ爲メニ利益タルコト明カ
 ニシテ而シテ其一人カ義務ヲ履行スルハ自己ノ擔分ヲ除クノ外他ノ債務者ノ代
 理ヲ爲スモノナリトノ意ナリ又債務者ノ利益ニ於テモ互ニ代人ヲラシムトハ如

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶
 債務者間ノ連帶ノ性質

債務者間ノ連帶ノ性質及原因

何ナルコトナリヤト云フニ債權者カ債權者ノ一人ニ對シテ爲シタル行爲カ他ノ債權者ニマテ其効力ヲ及ホスヲ以テ債權者ノ爲メニモ他ノ債權者ノ代理ヲ爲スモノナリトノ意ナリトス例ヘハ債權者ノ互ニ代人タルヨリ債權者カ債權者ノ一人ニ對シテ爲シタル時効ノ中斷ハ他ノ債權者ニモ其効力ヲ及ホシ或ハ債權者中無能力者ヲ除キ有資力者ニ就キテ義務全部ノ履行ヲ求ムルコトヲ得ルカ如キ是レナリ之ヲ要スルニ債權者相互ニ代理スルハ債權者間ノ連帶ニ於ケル義務ノ本體ニシテ我カ民法カ債權者間ノ連帶ヲ以テ一ノ擔保ト爲シ本法中ニ規定シタルモ實ニ此本體ヨリ生スル所ノ結果債權ヲ確ムルカ故ニ外ナラス語ヲ換ヘテ云ヘハ連帶債權者ハ各自ニ債權者ニ對シテ他ノ債權者カ義務ヲ履行セサルモ一人ニテ之ニ代ハリテ辨濟スヘシトノ擔保ヲ與ヘタルニ在ルナリ

第二款 債務者間ノ連帶ノ原因

債務者間ノ連帶ノ原因ニ付テハ債權擔保編ハ其第五十二條第二項ニ此連帶ハ合意遺言又ハ法律ノ規定ヨリ生スト規定シタリ即チ此法文ニ依レハ債務者間ノ連帶ハ

債務者間ノ連帶ノ原因

一、 合意

二、 遺言

三、 法律ノ規定

ノ三原因ノ一ニ因リテ生スルモノナリ本來連帶ハ義務ノ體様ノ一ニ屬スルモノタル已上ハ連帶發生ノ原因モ通常義務發生ノ原因ト同一ナラサルヘカラサルハ理ノ當然タルカ如シ然ルニ通常義務發生ノ原因ニハ財産編第二百九十五條ニモ規定セルカ如ク

一、 合意

二、 不當ノ利得

三、 不正ノ損害

四、 法律ノ規定

ナル四個アルニ前顯法文中債務者ノ連帶ノ生スル原因中ニハ不當ノ利得及不正ノ損害ノ二原因ヲ缺キ之ニ代ユルニ遺言ナル一原因ヲ加ヘタリ然ラハ本法ハ債務者間連帶ノ原因中ニ不正ノ損害及不當ノ利得ヲ省キタルハ何ソヤ草案者ハ民

對人擔保法

連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ原因

債務者間ノ連帶ノ性質及原因

法草案ノ注釋ニ其理由ヲ辯シテ曰ク不當ノ利得若クハ不正ノ損害ニシテ多數ノ者ノ所爲ニ出タル時ハ其義務タル普通ハ完全ノモノトナル可シ然ルニ若シ法律カ此完全ノ義務ニ満足セスシテ連帶ノ義務ヲ生セシメントスルトキハ法律ハ其場合ヲ規定スルヲ以テ夫レニ依リ之カ希望ヲ遂クルコトヲ得ヘシト其意蓋シ右二個ノ原因ハ義務ノ原因タルモ必スシモ連帶ナル體様ヲ生スル原因ニアラス是等ノ原因ヨリ生スル義務ヲ以テ連帶ヲラシムルノ必要アルトキハ法律ハ場合ニ臨ンテ其連帶タルコトヲ規定スルカ故ニ法律ノ規定ナル原因中ニ包含セシムヘシトスルコトナルカ如シ然レトモ斯ノ如ク論シ來ルトキハ獨リ連帶ナル體様ニ限ラス如何ナル體様如何ナル義務モ皆法律ノ規定ヨリ生スルモノト云フテ不可ナク從テ義務ノ原因ト云ヒ其體様ノ原因ト云ヒ單ニ法律ノ規定ナル一原因ヲ示シテ事足ルヘキノ思ヒナキヲ得サルヘキナリ殊ニ又前述セルカ如ク債務者間連帶ノ原因中ニ遺言ナル一原因ヲ加ヘタルカ如キニ至リテハ余ハ殆ト辯解ニ苦シマサルヲ得ス何トナレハ財産編第二百九十五條ニ依ルニ遺言ハ義務ノ原因ニアラス既ニ義務ノ原因ニアラサルニ義務ノ體様ナル連帶ニシテ遺言ヨリ生スヘキ

理由ナケレハナリ本來遺言ナルモノハ夫レ自身ニ於テ効力ヲ生スルモノニアラスシテ之ヲ受ケタルモノ、承諾ヲ要スヘシ語ヲ換ヘテ云ヘハ遺言ハ合意アリテ初メテ効力ヲ生スルモノナルカ故ニ通常合意中ニ包含セシメテ不可ナキハ勿論タリ財産編第二百九十五條義務ノ原因中遺言ノ一事ナキモ蓋シ此理由ニ依ルコト明カナリ連帶ノ場合ニ在リテモ同一ニシテ遺囑者カ遺言ニ因リテ連帶義務ヲ負ハシムルコトアルモ之ヲ受諾スルト否トハ相續人ノ自由ニ屬ス可シ果シテ然リトセハ遺言ハ連帶ノ原因ニアラスシテ寧ロ合意カ連帶ノ原因タルナリ之ヲシモ尙ホ連帶ノ原因ハ遺言ニアリトセハ義務モ亦遺言ニ因リテ生スルコトナカルヘカラサルヤ明ケシ學者或ハ曰ク遺囑相續ニ依リ相續人カ其權利上ヨリ相續ヲ受諾シタルトキハ遺言ニ依リテ負ハシメタル連帶義務ヲモ負擔セサルヘカラス若シ夫レ遺產ノミヲ受諾シテ義務ヲ負擔セサルトキハ他人ヲ害シテ自カラ利スル者ナリ例ヘハ或ル土地ヲ贈與スルヲ以テ其代ハリトシテ受贈者ハ某ニ對シテ連帶義務ヲ負フヘシトノ遺言アリトセンカ其土地ノ贈與ヲ受諾シタルトキハ連帶義務ヲモ合セテ負ハサルヘカラサルヲ以テ遺言ハ連帶ノ原因タルナリト此說

對人擔保法

連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ原因

債務者間ノ連帶ノ性質及原因

タル殆ト意味ナキモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ此説ニ依レハ獨リ連帶ノ場合ノミナラス單純ナル義務モ亦遺言ヨリ生スルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ然ルニ義務ハ遺言ヨリ生セス連帶ハ遺言ヨリ生スルコトアリトハ不理モ亦甚シカラスヤ況ンヤ前述ノ例ニ於ケル連帶義務モ受贈者ノ受諾アリテ初メテ効力ヲ生スルモノナルニ於テチヤ之ヲ要スルニ債權擔保編カ債務者間連帶ノ原因ヲ以テ合意遺言及法律ノ規定ナル三個トナシタルニハ余ハ徹頭徹尾同意ヲ表スル能ハサルナリ

然リ而シテ連帶ノ成立スルニハ二個ノ條件ヲ必要トナストノコトハ又第五十二條第三項及第五十三條ノ規定スル所ナリ此二箇ノ法文ニ就テハ大ニ疑惑ヲ生ゼサルヲ得サルモ其要債務者連帶ノ成立ニハ二箇ノ條件ヲ必要トナストノ精神ニ外ナラス即チ

- 第一、連帶義務ハ明示ナルヲ要ス
- 第二、連帶ハ義務ハ其目的ト原因トハ同一ナルヲ要ス

トノコト是レナリ尤モ第五十二條第三項ノ法文ハ獨リ債務者間ノ連帶ノ場合ノ

ミナラス債權者間ノ連帶ノ場合ニモ亦之ヲ適用スルノ精神ナルカ如シ此事ニ關シテハ余ハ債權者間ノ連帶ノコトヲ講述スル時ニ述フヘシ債連帶ノ義務ハ明示ナルヲ要スル所以ノモノハ他ナラス連帶ノ義務ハ普通ノ義務ヨリ債務者ノ各自ニ取リテ負擔ノ重キモノナレハ其手續ヲ鄭重ニシ明リニ推定スルカ如キコトナカハシメムコトヲ期シタルニ外ナラス然レトモ其所謂明示ト稱スルコトヲ得ヘキ程度如何ニ至テハ之ヲ一定スルコト頗ル難シ若シ夫レ明示ノ意義ニシテ單ニ證書面ニ明瞭ニ義務ハ連帶ナリト記スル場合ノミナ云フコトナラフカ固ヨリ疑ヲ生スルコトナカルヘシト雖モ明示ノ意義ハ必スシモ證書面ニ連帶ノ文辭アルヲ要ストノ意ニアラスシテタトヒ連帶ノ文辭ナキモ財產編第三百五十六條ノ規定ニ從ヒ當事者ノ共通ノ意思ヲ推尋シテ連帶タルコトノ明カナル場合モ亦明示ナリト謂ハサルヘカラス去レハ其共通ノ意思ヲ推尋スルニ當リテ屢々困難ヲ生スルコトアルヘキハ止ムヲ得サルノ數ナリ第五十二條第三項ノ但書ニ不可分ニ關シ第八十八條ニ規定シタルモノハ此限ニ在ラストノ例外ヲ設ケタレトモ余ヲ以テ之ヲ見レハ第八十八條ノ規定ハ決シテ連帶ハ明示ナルヲ要スト云ヘル規則

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶債務者間ノ連帶ノ原因

債務者間ノ連帶ノ性質及原因

ノ例外ニアラス何トナレハ該條ニハ受方ナルト働方ナルトナ問ハス任意ノ不可分ヲ設定シタルトキハ受方又ハ働方ノ連帶ヲ明示ニテ阻却セサル場合ニ限り債務者又ハ債權者ノ間ニ此連帶ノ効力ヲ生セムトアリテ正サシク法律カ連帶ノ成立ヲ明示シタルモノダレハナリ又連帶ノ義務ハ其目的ト原因ト同一ナルヲ要スル所以ノモノハ他ナラス數人ノ債務者ノ負フ所ノ義務ノ目的ト原因ニシテ互ニ異ナルトキハ互ニ代人タラシムルコトヲ得スシテ連帶ノ本體ヲ失ヘハナリ然ラハ則チ義務ノ目的ト原因ノ同一ナルトハ如何ナルコトナルヤト云フニ即チ間接タルト直接タルトナ問ハス義務ノ目的事物ノ同一ナルト其義務ヲ生セシメタル原因ノ同一ナルノ意ニシテ例ヘハ甲、乙、丙ノ三人カ負フ所ノ義務ニシテ連帶タルニハ其義務ヲ生セシメタル原因カ甲、乙、丙共ニ一ノ賣買ニ在リテ而シテ其目的物カーノ金額ニ在リト云フカ如シ尙ホ語ヲ換ヘテ云ヘハ甲、乙、丙共ニ一ノ債務ヲ負フ場合ヲ指示セルナリ若シ夫レ甲、乙、丙ノ三人カ負フ所ノ義務ニシテ各々其原因及目的ヲ異ニシ甲ハ賣買ヨリ生シタル支拂ノ義務ヲ負ヒ乙ハ工事請負ヨリ生シタル建築ノ義務ヲ負ヒ丙ハ貸借ヨリ生シタル返済ノ義務ヲ負フコトアラン

カ同シク同一ノ債權者ニ對シテ負フ所ノ義務ナルモ到底連帶タルコトヲ得サルヘキナリ是レ即チ第五十三條第一項但書ノ規定アル所以ナリ唯茲ニ注意スヘキハ同條第一項ノ本文ハ正シク合意ニ因リテ生スル連帶義務ニ關スル規定ニシテ而シテ但書ニモ亦其義務云々トアルヲ以テ連帶ノ義務ハ其目的ト原因ト同一ナルヲ要ストノ條件ハ獨リ合意ニ因リテ生スル連帶ノ場合ノミニ適用スルモノナルカ如キ感ナキヲ得スト雖モ法文ノ精神ハ決シテ然ラストノコト是ナリ斯ル疑惑ヲ生スルハ畢竟第五十三條第一項ノ法文カ本文ニ置クヘキ規定ヲ但書トシ但書ニ置クヘキ規定ヲ本文トシタルニ起因スルモノト謂ハサルヘカラス此法文ニシテ

數人ノ債務者ノ權利義務ハ目的ト原因ノ同一ナルヲ要ス但合意ニ因ル權利連帶義務ト雖モ同一ノ行為ヲ以テ又同時同所ニ於テ之ヲ契約スルヲ要セストモ修正シタランニハ精神一層明瞭ナルヘキノミナラス寧ロ法文ノ順序ヲ得タルモノナルヲ信スルナリ何トナレハ斯ク如ク修正スルトキハ如何ナル原因ニ依リテ生スル連帶義務ト雖モ目的ト原因ハ必ス同一ナラサルヘカラストノ精

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶債務者間ノ連帶ノ原因

債務者間ノ連帶ノ性質及原因

神ヲ明瞭ナラシムルコトヲ得テ而シテ該項規定ノ精神亦實ニ之ヲ明カニスルニ在レハナリ

然ラハ則チ合意ニ因ル連帶義務ニ限リテ第五十三條第一項本文ノ如キ規定ヲ要シ遺言又ハ法律ノ規定ニ因ル連帶義務ニ付テハ同一ノ規定ヲ要セサルハ何故ナルヤ是レ自明ノ事柄ト謂ハサル可カラス何トナレハ遺言ニ因ル場合ニ在リテハタトヒ行爲時期若クハ場所ヲ異ニシ順次遺言スルコトアルモ其効力ヲ生スルノ日ハ何レモ皆チ遺囑者死亡ノ日ナルヲ以テ法律ハ此場合ニ於ケル債務者ノ連帶ハ同時ニ成立シタルモノト認ムヘク又法律ノ規定ニ因ル場合ニ在リテハ債務者ノ連帶ハ皆チ同一ノ時期ニ生シ獨リ合意ニ因ル場合ニ在リテハ屢々行爲時期場所ヲ異ニスルコトアレハナリ尤モ此場合ナレハトテ敢テ必スシモ法律ニ明示スルノ必要ナシ蓋シ連帶ハ行爲時期又ハ場所ヲ同ウセサレハ成立スルコトヲ得サルヘキ性質ノモノニアラサルコトハ當然明瞭ナレハナリ而シテ合意ニ因リ連帶義務ヲ生スルニ行爲時期又ハ場所ヲ異ニスルコトアリトハ如何ナル場合ナリヤト云フニ例ヘハ乙者アリ東京ニ於テ明治二十八年五月一日ヲ以テ甲者ヨリ一千

圓ノ債務ヲ負ヘリ然ルニ丙者アリ同月二十日ヲ以テ長崎ニ於テ其債務ニ加ハリ別ノ證書ニ依リ乙者トノ連帶ヲ認メタル場合ノ如キハ即チ乙者及丙者ハ各々行爲ヲ異ニスルノミナラス其契約ヲ爲シタル場所及時期ヲ異ニスルモノナリトス然レトモ其連帶義務ノ成立ニ就テハ更ニ何等ノ差支ヘモアルヘカラス

倍又連帶義務ノ成立スルニハ共同債務者カ負フ所ノ義務ハ各々其體様同一ナルヲ要スヘキカ又其負擔モ均一ナルヲ要スヘキカト云フニ債權擔保編ハ前顯第五十三條第二項ノ法文ニモ示スカ如ク連帶債務者ハ別異及不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得ト規定シタリサレハ共同債務者中ノ一人ハ條件附ノ義務ヲ負ヒ他ノ一人ハ無條件ノ義務ヲ負ヒ或ハ又一人ハ利息ヲ負擔シ他ノ一人ハ之ヲ負擔セサル等體様ヲ異ニシ負擔ヲ異ニスル所ノ義務ヲ負フモ其連帶タルニ於テハ差支ヘナキコト明カナリ然ルニ連帶ノ性質タル債務ノ全部ニ付テ共同債務者相互ニ代理ヲ爲スモノタルニ右ノ如ク共同債務者カ別異及不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得ルモノトセハ到底連帶ノ本體ヲ完ウスルコトヲ得サルニ似タリ何トナレハ體様又ハ負擔ニシテ各々差異アルトキハ債務者

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶債務者間ノ連帶ノ原因

債務者間ノ連帶ノ性質及原因

互ニ代理スルコトヲ得サルカ如キ感アレハナリ即チタトヘハ甲ハ條件附乙ハ無條件ノ體様ニテ同一ノ債務ヲ連帶ニテ負フコトアリトセンカ甲ノ義務ハ條件附ナルカ故ニ其條件ノ發生スルマテハ債務者ヨリ出訴ヲ受クルコトナカルヘシ果シテ然リトセハ乙ハ甲ノ義務ノ繫ル條件ノ發生スルマテノ間ニ債權者ヨリ出訴ヲ受ケ結局乙ニ取リテハ甲ノ連帶アルモ債權者ニ對シテハ連帶ナキト一般ナルコト、ナラサルヲ得ヌ又タトヘハ甲ノ義務ハ有期乙ノ義務ハ無期ナルトキノ如キモ同一ノ結果トナルヘシ蓋シ甲ハ其期限ノ到着スルニアラサレハ乙カ出訴ヲ受クルコトアルモ自カラ出訴ヲ受クルコトナケレハナリ是ヲ如何ソ連帶ノ連帶タル効ヲ完ウスルモノト謂フコトヲ得ヘキカ現ニ債權擔保編ハ其第五十四條ニモ數人ノ連帶債務者ヲ有スル債權者ハ其訴追セント擇ミタル債務者ニ對シ只一人ノ債務者ニ於ケルカ如ク且其債務者ヨリ檢索又ハ分別ノ利益ノ抗辯ヲ受クルコトナク義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得ト規定セルニアラスヤ前掲ノ諸例ニ於テ果シテ債權者ハ數人ノ債務者ヲ以テ一人ノ如ク見ルコトヲ得ヘキカ余ハ甚タ疑ハサルヲ得ヌ然レトモ既ニ本法ニ於テ其連帶義務タルニ差支ナキコトヲ

四五

債務者間ノ連帶ノ効力
債務者ノ連帶債務者ニ對スル權利

規定セル以上ハ又如何トモスヘカラサルナリ

第二節 債務者間ノ連帶ノ効力

第一款 債權者ノ連帶債務者ニ對スル權利

債務者間ノ連帶ハ前節ニ述フルカ如キ性質ノモノナルニ依リ債權者ハ其連帶債務者ニ對シテ義務全部ノ履行ヲ要求スルノ權利アルコト勿論タリ而シテ全部履行ノ要求權ノコトニ就テハ債權擔保編ハ其第五十四條ニ之ヲ規定セリ此規定タル連帶義務夫レ自身ヨリ生スル自然ノ結果ニシテ殆ント連帶義務ノ定義ナリト云フモ不可ナシ即チ連帶義務者ハ各自互ニ代理ナナスモノタルヲ以テ其義務者ノ數幾人アリトモ債權者ニ對スルトキハ恰モ一人ニテ全部ノ義務ヲ負擔シタルト同一ノ効果アリ從テ債權者ヨリ連帶債務者ヲ見ルトキハ其債務者ノ數ト同一ノ員數ニ於テ全部ノ義務ヲ負擔スル所ノ數債務者アルト同一ナリ是ヲ以テ債權者ハ其債務者ノ内ノ一人ヲ撰ミ之ニ對シ全部ノ義務ヲ履行スルコトヲナシ得ヘク又其總員若クハ幾部ニ對シテモ同一ノ要求ヲナスコトヲ得ヘキナリ而シテ其要求ヲ受ケタル債務者ハ何レモ皆ノ債權者ニ對シテハ本債務者タルカ故ニ檢索

對人擔保法

連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
債權者ノ連帶債務者ニ對スル權利

ノ利益若クハ分別ノ利益ヲ主張スルコトヲ得サルハ勿論己レノ外尙ホ債務者ノアルコトヲ以テ抗辯トナシ或ハ債務ノ幾部ヲ支拂フヘシトノ抗辯ヲナスコトヲ得ス是レ實ニ連帶義務連合義務ト其性質ヲ異ニスル所ノ主點ニシテ連帶義務ノ本體タリ

若シ又何等ノ辨濟モアラサル前ニ債務者ノ一人或ハ數人或ハ總員カ無資力ト爲リタルカ如キコトアラシカ債權者ハ如何ナル債權額ヲ以テ之カ清算ニ加入スルコトヲ得ヘキカ債權擔保編ノ規定ノ大要左ノ如シ

(甲) 何等ノ辨濟モアラサル前ニ債務者カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル

債權者ノ清算加入

一、債務者ノ一人カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル清算加入

何等ノ辨濟モアラサル前ニ債務者ノ一人カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル清算加入ノコトニ付テハ第六十七條第一項ニ規定セリ即チ知ルヘシ債務者ノ一人カ何等ノ辨濟モアラサル前ニ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル債權者ノ清算加入權ハ普通ノ債權者カ債務者ニ對スル

清算加入權ト更ニ異ナルコトナキナ蓋シ普通ノ場合ニ於テ債務者カ無資力トナリタルトキハ債務ノ滿期前ナリト雖モ其無資力ハ期限ノ利益ヲ消滅セシムルノ効果アルト同シ此場合ニ於テモ債務ノ期限如何ニ係ハラス債權者ハ連帶債務者中無資力トナリタルモノ、清算ニ加ハルコトヲ得ヘキナリ而シテ其清算ニ加ハルコトヲ得ヘキ債權額ノ程度モ亦債務ノ全額タルヘキハ勿論タリ何トナレハ債權者ハ連帶債務者ノ各自ニ對シテ債務全部履行ノ要求權ヲ有スレハナリ故ニタトヘハ甲、乙、丙ノ三人連帶ニテ丁ナル債權者ニ對シ五千圓ノ義務ヲ負ヘリ而シテ其未タ何等ノ辨濟モ之ヲナサ、ル前ニ連帶債務者中ノ一人タル甲ハ無資力トナレリ然ルニ甲ハ尙ホ他ニ戊ナル債權者ニ對シ三千圓ノ債務ヲ負フコトアリトセンカ即チ戊ハ三千圓ノ債權額トハ五千圓ノ債權額ヲ以テ甲ノ清算ニ加入スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テ甲ノ清算高僅カニ二千圓ナルトキハ取リモ直サス債權總額八千圓ニ對スル二千圓ナルニ依リ丁ハ二千圓ノ八分ノ五即チ一千二百五

對人擔保法

連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
債權者ノ連帶債務者ニ對スル權利

十圓ヲ受クヘク戊ハ二千圓ノ八分ノ三即チ七百五十圓ヲ受クヘキ割
合トナルヘシ

二、債務者ノ總員又ハ其中ノ數人カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル清
算加入

何等ノ辨濟モアラサル前ニ債務者ノ總員又ハ其中ノ數人カ無資力ト
爲リタル場合ニ於ケル清算加入ノコトニ付テハ第六十九條ニ規定セ
リ蓋シ此場合ニ於テハ其無資力ト爲リタル債務者ノ數ニ同シキ清算
ノ數ヲ生スヘシト雖モ債權者ハ矢張債權ノ全額ニ付キ其各清算ニ加
ハルコトヲ得ヘシ是レ他ナラス債權者ハ債務者ノ各自ニ對シテ債務
全部ノ履行ヲ要求スルノ權利ヲ有スレハナリ斯クノ如ク夫レ債權者
ハ各清算ニ加ハルノ權利ヲ有スト雖モ實際ニ於テ各清算ヨリ債權ノ
全額ニ付キ配當ヲ受クルトキハ配當ノ割合債權ノ總額ニ對スル割合
ニ超過スルノ結果ヲ生スヘキヲ以テ第六十九條第二項及第三項ニ於
テ斯クノ如キ場合ニ於ケル配當金受取ノ割合並ニ受取タル金額ニ殘

餘ヲ生シタルトキノ處分方法ヲ定メタリ即チ其規定スル所ニ依レハ
債權者カ實際受取ルヘキ配當金ハ其清算ノ一ニ於テ未ダ受取ラサル
所ノ債權ノ割合ニ應セサルヘカラス然ルトキハ債權ノ全額ニ應シテ
配當ヲ受クルヨリモ實際ニ受クル所ハ少額ナルニ依リ從テ殘餘ヲ生
セサルヲ得ス而シテ其殘餘ハ各清算ヨリ辨濟ヲ受ケタル割合ニ從
テ之ヲ各清算ニ返還スヘキモノトセリ例ヘハ甲、乙、丙三人連帶ニテ
丁ナル債權者ニ對シ五千圓ノ債務ヲ負ヘリ而シテ其未ダ何等ノ辨濟
モ之ヲ爲サ、ル前ニ甲、乙、丙共ニ順次若クハ同時ニ無資力ト爲レリ然
ルニ甲ハ尙ホ他ニ戊ナル債權者ニ對シ三千圓、乙ハ己ナル債權者ニ對
シ二千圓、丙ハ庚ナル債權者ニ對シ一千圓ノ債務ヲ負フコトアリトセ
シカ即チ甲ノ清算ニ對シテハ丁ハ五千圓、戊ハ三千圓、乙ノ清算ニ對シ
テハ丁ハ五千圓、己ハ二千圓、丙ノ清算ニ對シテハ丁ハ五千圓、庚ハ一千
圓ノ債權額ヲ以テ之ニ加入スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テ甲ノ清算
額ハ四千圓、乙ノ清算額ハ三千五百圓、丙ノ清算額ハ三千圓ナルトキハ

對人擔保法

連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
債權者ノ連帶債權者ニ對スル權利

甲ノ清算ニ就テハ債權總額八千圓ニ對スル四千圓乙ノ清算ニ就テハ債權總額七千圓ニ對スル三千五百圓丙ノ清算ニ就テハ債權總額六千圓ニ對スル三千圓ナルニ依リ丁ハ甲ノ清算ニ於テ四千圓ノ八分ノ五即チ二千五百圓乙ノ清算ニ於テ三千五百圓ノ七分ノ五即チ二千五百圓丙ノ清算ニ於テ三千圓ノ六分ノ五即チ二千五百圓ノ割合ニテ總計七千五百圓ヲ受クルコト、ナルヘキモ斯ノ如キ配當割トナストキハ不權衡ヲ免カレサルカ故ニ丁ニシテ若シ甲ノ清算ニ於テ二千五百圓ヲ受ケタルトキハ乙ノ清算ニ於テハ債權ノ殘額五千五百圓ニ相應スルノ配當ヲ受ケ又丙ノ清算ニ於テハ尙ホ此五千五百圓ヨリ乙ノ清算ニ於テ受ケタル配當金額ヲ引去リタル債權ノ殘額ニ相應スルノ配當ヲ受クルモノトハナスナリ然ルニ丁ハ各清算ニ於テ債權ノ全額ヲ以テ之ニ加入スルノ權利アルカ故ニ權利上ヨリ云ヘハ受取額ニ差引殘餘ヲ生セサルヲ得サルコト、ナルヲ以テ其殘餘ハ之ヲ各清算ヨリ受クヘキ割合ニ應シテ返還シ以テ他ノ債權者トノ權衡ヲ得セシムルモ

ノトス

(乙)

幾分ノ辨濟アリタル後ニ債務者カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル債權者ノ清算加入

幾分ノ辨濟アリタル後ニ債務者カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル清算加入ノコトニ付テハ第六十八條ニ規定セリ蓋シ此場合ニ於テハ前述シタル所ノ何等ノ辨濟モアラサル前トハ異ナリテ既ニ一分ノ辨濟アリタル後チナルヲ以テ其辨濟ヲ受ケタル部分ニ付テハ權利ノ既ニ消滅ニ屬シタルモノナルカ故ニ其無資力ト爲リタル者ノ清算ニハ債權ノ殘額ノ爲メニアラサレハ之ニ加入スルコトヲ得サルナリ即チ此場合ニ於テハ其債權ノ殘額カ債權ノ全額ナレハナリ故ニ例ヘハ甲乙丙ノ三人連帶ニテ丁ナル債權者ニ對シ三千圓ノ債務ヲ負ヘリ而シテ甲ヨリ一千圓ノ辨濟ヲ爲シタル後ニ乙無資力ト爲リタリトセンカ丁ハ乙ノ清算ニ對シテハ債權ノ殘額二千圓ノ爲メニアラサレハ之ニ加入スルコトヲ得サルカ如シ法文ニハ單ニ一分ノ辨濟アリタル後債務者ノ一人カ無資力ト爲リ

對人擔保法

連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
債權者ノ連帶債務者ニ對スル權利

タル場合ノコトノミ規定スト雖モ債務者ノ總員又ハ其中ノ數人カ無資力ト爲リタル場合モ亦同様ナルヘキハ勿論タリ只此場合ニ在リテハ何等ノ辨濟モアラサル前ニ債務者ノ總員又ハ其中ノ數人カ無資力ト爲リタル場合ニ於ケル清算加入ニ付テノ規定ト同一ノ方法ニ依ルヘキコト、知ルヘシ

第二款 連帶債務者ノ債權者ニ對スル權利

連帶債務者ハ互ニ代理ヲナスモノナルカ故ニ其訴ヲ受ケタルト否トヲ問ハス債權者ニ對シテ自己ノ分擔ノミニ付テノ辨濟ヲ受ケルコトヲ強要シ或ハ之ニ關シ抗辯ヲナシ得ルニ止マラス連帶債務者ノ負ヘル債務全體ニ付テノ辨濟ヲ受ケルコトヲ強要シ又ハ之ニ關シ抗辯ヲナスコトヲ得ヘシ即チ義務ノ全部履行ヲ受ケルコトヲ強要シ得ルコトニ關シテ債權擔保編ハ之ヲ其第五十五條ニ規定セリ此規定タル即チ財產編第四百四條ノ適用ニ過キス蓋シ同條ニハ債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シテ滿期前ト雖モ其義務ヲ履行スルコトヲ得ヘシ然レトモ其期限ニシテ債務者ノ利益ノ爲メノミニ定メラレタルモノナルトキハ此限ニ在ラサル旨ヲ

連帶債務者ノ債權者ニ對スル權利

規定シタリ此故ニ特別ノ理由アル場合ノ外債務者ハ滿期前ト雖モ義務全部ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ債權者ニ強要スルコトヲ得ヘシ從テ債權者ハ滿期前チ口實ト爲シテ其履行ヲ拒ムコトヲ得サルナリ而シテ連帶ノ場合ニ在リテ債務者ノ一人カ全部ノ辨濟ヲ受ケルコトヲ強要スルコトヲ得ル所以ノモノハ他ナラス前述セラルカ如ク連帶債務者ハ正ニ代理ヲ爲セバナリ又連帶債務者ノ各自カ債權者ニ對シテナスヲ得ヘキ抗辯方法ハ保證人カ債權者ニ對シテナスヲ得ヘキモノト同シク延期抗辯及基本抗辯トス

(甲) 延期抗辯

連帶債務カ債權者ニ對シテ有スル延期抗辯方法ニ付テハ債權擔保編ハ之ヲ其第五十六條ニ規定セリ抑モ延期抗辯ノコトタル余カ既ニ講述シタルカ如ク保證人ノ爲メトシテハ第二十四條及第二十九條ニ共同保證人相互ノ爲メトシテハ第四十一條ニ一般ニ他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負ヒタル者ノ爲メトシテハ財產編第三百九十八條及第三百九十九條ニ規定シタリ第五十六條モ亦其精神ニ至リテハ同一ニ出テ連帶

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
連帶債務者ノ債權者ニ對スル權利

債務者ノ一人カ訴追セラレタルトキハ他ノ債務者ヲシテ其訴訟ニ付キ答辯セシムル爲メ若クハ辨償ノ擔任ヲ爲サシムルカ爲メ其訴訟ニ參加セシムルノ手續ヲ爲スニ必要ナル期間ノ延期ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトナセリ而シテ此抗辯ニ關スル詳細ノコトハ余既ニ講述シタルヲ以テ再ヒ茲ニ重複講述スルノ必要ナカルヘシ唯第五十六條第一項ノ但書ニ付テハ聊カ茲ニ説明ヲ要スヘキナリ此但書ノ規定ノ主意タル他ナラス連帶債務者ノ一人カ訴追ヲ受ケタルトキ他ノ債務者ヲシテ參加セシムルコトハ之ヲ許スト雖モ訴訟ノ對手人ハ依然訴追ヲ受ケタル債務者ノミニシテ決シテ其參加セラレタル者ヲ對手人中ニ加フルコトナシトノコトナリトス是レ連帶ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ參加シタル者ヲモ訴訟ノ對手人トナサ、ルヘカラサルモノトナスニ於テハ債權者カ連帶債務者ニ對シテハ其中ノ一人ニテモ若クハ總員ニテモ自カラ欲スル所ニ從ヒテ之ヲ訴フルコトヲ得ト云ヘル原則ニ矛盾スルコト、ナルヘケレハナリサレハ訴訟ニ付テノ

判決モ亦只訴追ヲ受ケタル債務者ノミニ對シテ之ヲ爲シ參加人ニハ單ニ訴追ヲ受ケタル債務者カ辨償ヲ終ヘタル後分擔スヘシトノ申渡シヲ爲スニ過キサルコト、知ル可シ
 借又第五十六條第二項ニ於テ連帶債務者ハ其利益保護ノ爲メニ訴訟ニ參加スルコトヲ得ト規定シタルハ矢張連帶債務者ノ相互ノ代理ヲ爲スヨリ結果スルコトニ屬ス即チ相互ニ代理ヲ爲スモノナルカ故ニ被告タル債務者ノミニ一任シテ不安心ナリト思惟スル場合ニハ自カラ進ンテ訴訟ニ參加シ自己及他ノ債務者ノ爲メニ充分ニ答辯スルコトヲ得ヘキナリ尤モ此場合ハ自カラ進ンテ參加スルモノニシテ訴追ヲ受ケタル債務者ノ請求ニ依ルモノニアラサレハ其之ニ關スル一切ノ費用ハ自辨タルヘキコト勿論タリ

(乙) 基本抗辯

連帶債務者ノ債權者ニ對スル基本抗辯ノコトニ付テハ債權擔保編ハ之ヲ其第五十七條及第五十八條ニ規定シタリ此兩條ニ於ケル規定ハ余カ

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
連帶債務者ノ債權者ニ對スル權利

曩キニ講述シタル所ノ保證人ノ債權者ニ對スル基本抗辯ニ關スル規定ト其精神ニ於テ更ニ異ナル所ナキカ故ニ再ヒ茲ニ其詳細ヲ講述スルノ必要ナカルヘシ即チ第五十七條ノ規定ニ付テ云ヘハ義務履行ノ爲メ訴追ヲ受ケタル各債務者ハ自己ノ權利ニ基クト共同債務者ノ權利ニ基クトチ同ハス其本來ノ義務ノ成立セルヤ否ヤ若クハ又一ダヒ成立シタルモ既ニ消滅ニ歸シタルヤ否ヤニ關シ債務ノ全部ニ付キ債權者ノ訴追ニ對シ抗辯スルコトヲ得ヘキハ當然ナリ尙ホ此他更改、免除、相殺及混同ニ付キ連帶債務者ノ權利ニ關シテハ總テ財産編ノ規定ニ從フモノトセリ今其大要ヲ説明セン

一、更改 更改ノコトハ財産編第五百一條ノ規定スル所タリ而シテ其規定ニ依レハ連帶債務者ノ一人ト爲シタル更改ハ其債務者ノ部分ニ付テノミ他ノ債務者ナシテ義務ヲ免カレシムトアリ此故ニ債務者カ訴追ヲ爲シタル債務者外ノ債務者ト更改ヲ爲シタルトキハ其訴追ヲ受ケタル債務者ハ之ヲ以テ抗辯ト爲シ其更改ヲ爲シタル債務者ノ擔

分ニ付テハ義務ヲ免カル、ヲ得ヘシ

二、免除 免除ノコトハ財産編第五百六條ノ規定スル所タリ而シテ其規定ニ依レハ連帶債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ナシテ其義務ヲ免カレシムトアリ是レ他ナラス連帶債務者ハ相互ニ代理ヲ爲スモノダレハナリ尤モ債務者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ此限ニ在ラサルナリ

三、相殺 相殺ノコトハ財産編第五百二十一條ノ規定スル所タリ而シテ其規定ニ依レハ連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニアラサレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルナリ例ヘハ甲乙ノ連帶債務者アリ甲ハ債權者ニ對シテ或ル債權ヲ有スル場合ニ於テ乙訴追ヲ受ケタルトキハ甲ノ擔分ニアラサレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルカ如シ

四、混同 混同ノコトハ財産編第五百三十五條ノ規定スル所タリ而シ

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力
連帶債務者ノ債權者ニ對スル權利

テ其規定ニ依レハ債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續シタルトキハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テノミ消滅スヘキナリ

又第五十八條ノ規定ニ付テ云ヘハ債務者ノ一人ノ無能力又ハ承諾ノ瑕疵ニ基キタル抗辯ニシテ有効ナルトキハ其抗辯方法ヲ有スル債務者ノ負擔ニ屬スル部分ハ之ヲ全債務中ヨリ控除スヘキモノトハ爲スナリ尤モ之ニハ一ノ條件ノ存スルモノアリ即チ其抗辯ノ有効ナルヨリ利スル所ノ他ノ債務者カ債務ヲ負フ當時ニ其無能力者若クハ承諾ニ瑕疵アリタル者ノ擔分ヲ必ス分擔スルモノナリト覺悟シタルコト是レナリ語ヲ換ヘテ云ヘハ他ノ債務者カーノ債務者ノ無能力ナリシコト又ハ承諾ニ瑕疵アリタルコトヲ知リナカラ連帶債務ヲ負フタル場合ナラサルコトヲ要スルナリ是レ蓋シ債務ヲ負フ當時ニ於テ他ノ債務者カ右等ノ事情アルコトヲ知リ居リタルトキハ是レ等ノ債務者ハ豫メ其無能力者又ハ承諾ニ瑕疵アリタル者ノ擔分ヲモ分擔スルノ覺悟アリタルモノト謂ハ

連帶債務者相互ノ權利

サルヘカラサレハナリ

第三款 連帶債務者相互ノ權利

連帶債務者ノ相互ノ間ニ存スヘキ權利ヲ大別スレハ

一、擔保附帶ノ訴權

二、擔保訴權

ノ二種ニ外ナラス仍テ是レヨリ追次此二種ノ權利ニ付キ其大要ヲ講述スヘシ

一、擔保附帶ノ訴權

擔保附帶ノ訴權ハ即チ訴追ヲ受ケタル債務者カ他ノ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルノ權利タリ蓋シ訴追ヲ受ケタル債務者ハ他ノ債務者ト共ニ義務ヲ負フモノナルカ故ニ財産編第三百九十八條及第三百九十九條ノ規定ニ依リテ此權利ヲ有スルナリ但シ此權利ノ性質目的等ニ就テハ余カ既ニ講述シタル所ナルヲ以テ茲ニ再ヒ説明スルノ必要ナカルヘシ

二、擔保訴權

擔保訴權即チ求償權ノコトニ付テハ債權擔保編ハ之ヲ其第六十三條ニ規

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力 連帶債務者相互ノ權利 三五五

定シタリ此規定ハ即チ連帶債務者ハ相互ニ代理ヲ爲ストノ原則ヨリ來リタルモノニ外ナラス蓋シ連帶債務者中ノ一人若クハ數人カ他ノ債務者ノ負擔ニ屬スル部分ヲモ辨濟シ若クハ自己ノ出捐ヲ以テ共同ノ免責ヲ得セシメタルハ取りモ直サス他ノ債務者ノ代理ト爲リテ爲セルモノタレハ取得編中會社及代理ノ規則ニ從ヒテ他ノ債務者ニ對シテ求償スルコトヲ得ルハ當然ナリト謂ハサルヘカラス此故ニ辨濟若クハ其他ノ出捐ニ依リ共同ノ免責ヲ得セシメタル債務者カ他ノ債務者ニ對スル求償權ノ保護範圍ハ會社及代理ノ規則ニ於テ許サレタル保護範圍ニ限ラサルヘカラス語ヲ換ヘテ云ヘハ自カラ代理人ト爲リタルヨリ依リテ以テ他債務者ノ免責ヲ得セシメタル部分ニ限り求償權ヲ有スヘキナリ去リナカラ其之カ免責ヲ得セシムルニ關シ必要ナリシ費用及其他ノ賠償モ代理ノ規則ニ依テ之カ求償ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論タリ會社ノ規則ハ取得編第三百三十四條及第三百三十五條ニ規定スル所ナレトモ要スルニ代理ノ規則ヨリ結果シタルモノナルニ過キサルヲ以テ茲ニ説明スルノ必要ナシ

倍又茲ニ一ノ注意ヲ要スヘキハ他ナラス第六十二條ノ規定是レナリ此規定タル連帶債務者相互ノ間ニ存スル代理ノ關係ニ於ケル範圍ヲ擴張シタルモノニシテ換言セハ連帶債務者ハ單ニ債權者ノ權利ノ保存ニ付テノミ代理スルモノニアラス負擔シタル物件若クハ行爲ニ關シテモ尙ホ之ヲ保存シ之ヲ看守スルコトヲモ代理シ從ヒテ連帶債務者ノ一人若クハ數人ノ過失過誤ハ他ノ債務者ノ過失過誤ヲ代表スル者ナリト云フニ在リ此規定ニシテ當然代理ノ關係ヨリ生スルモノトセハ敢テ特ニ明文ヲ要セスト雖モ佛國民法カ其第一千二百五條ニ恰カモ反對ノ規定ヲ置ケルヨリ我カ民法ハ佛國民法ノ子法タル結果トシテ斯ル規定ヲ見ルニ至レリ今夫レ佛國民法第一千二百五條ヲ見ルニ曰ク辨濟スヘキ物件連帶債務者中ノ一人若クハ數人ノ過失ニ因リ又ハ其付遲滯ノ間ニ滅失セシ時ハ他ノ連帶債務者ハ其物件ノ代價ヲ辨濟スルノ義務ヲ免カレス然レトモ損害賠償ハ之ヲ擔當スルニ及ハス債權者ハ物件ヲ滅失セシメタル債務者及遲滯ヲ爲シタル債務者ニ對シテノミ損害ヲ要求スルヲ得ト即チ知ル可シ該民法ニ於テハ連帶

債務者ノ一人若クハ數人ノ過失ニ因リテ義務ノ目的タル物件ノ滅失シタル場合ニ他ノ連帶債務者カ責ニ任スルハ單ニ其代價即チ現實ノ損害ニ付テノミニシテ其他債權者ノ得ヘキ利益ヲ害シタル損害ノ賠償ニ付テハ責ニ任スルコトナキナ

而シテ佛國民民法ニ於ケル此規定ノ依リテ生シタル所以ヲ尋ヌルニ連帶債務者ハ義務ノ保存ニ付テハ互ニ代理人タルモ義務ノ増加ニ付テハ代理ヲ爲スモノニアラストノ主意ニ出タルコト明カナリ蓋シ滅失シタル物件ノ代價ヲ辨償スルハ義務ノ保存ナルモ滅失ヨリ生スル所ノ他ノ損害賠償ハ義務ノ増加ナリトス然レトモ總テノ損害賠償ハ義務ノ増加ニアラスシテ義務ノ變體ナリト云フノ主意ヨリ觀察セハ佛國民民法ニ於ケルカ如キ規定ハ矛盾ノ結果ヲ生スヘキカ故ニ本法ニハ此主意ヨリシテ前顯第六十二條ノ如シ規定シタルモノナルヘシ法文中過怠約款云々トアルハ即チ連帶債務者カ契約ノ當時ニ於テ義務履行ノ不執行又ハ遲滯ノ爲メニ過怠約款ヲ設ケタルコトアル場合ヲ想像シタルモノニシテ其實一ノ損害賠償ニ外ナ

ラサルナリ右ノ理由ニ依リテ以テ連帶債務者ハ相互ニ債權者ニ對シテ過失、過誤ヲ代表スト雖モ其責タル結局其過失過誤ヲ爲シタル者ニ歸スヘキハ當然ノコトナルカ故ニ代理シテ損害ヲ賠償シタル債務者ハ其過失過誤ヲ爲シタル債務者ニ對シテ求償權ヲ有セサルヘカラス然レトモ其過失過誤ヲ爲シタル債務者自身カ債權者ヨリ訴追ヲ受ケ自カラ賠償シタルトキハ其損害ニ付テハ他ノ債務者ニ對シテ求償權ヲ有スルコトナカルヘシ是レ第六十二條ノ但書ニ於ケル精神ナリトス

借又右述ヘタルカ如シ債務ヲ辨濟シタル債務者カ他ノ共同債務者ニ對シテ求償權ヲ主張スルニハ各自ニ對シ其擔分ニ應セサルヘカラサルコトハ明カナリト雖モ其分擔ヲ定ムルノ方法ハ如何ト云フニ若シ豫メ分擔ニ付キ契約ノ存スルトキハ其契約ニ依ルヘキハ勿論ナリ第六十二條ノ法文中辨濟又ハ免責ノ限度トアル内ニハ契約ニ依リ其負擔ノ定マリ居レル場合ヲモ包含スルコト、知ルヘシ殊ニ第五十三條ノ第二項ニ於テ連帶債務者ハ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得トノ規定ヲ

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力 連帶債務者相互ノ權利 三五九

置キタルヲ以テ其契約ニ依リ各自別異ノ負擔ヲ爲シ得ヘキハ勿論ナリト
 ス若シ之ニ反シ分擔ヲ定ムルニ付キ何等ノ契約モアラサルトキハ共同債
 務者間ニ於テ均一ニ分擔スルヨリ外ナカルヘシ故ニ例ヘハ甲乙丙三人連
 帶ニテ六百圓ノ債務ヲ負ヘル場合ニ於テ其分擔部分ヲ定ムルニ付キ何等
 ノ契約モアラサルシ時ハ之カ分擔ハ甲乙丙各自均一ニシテ二百圓宛タラ
 サルヘカラサルカ如シ夫レ然ルニ各自ノ擔分相異ナル場合ニ於テ其
 辨濟ニ付キ生シタル特別ナル必要ノ費用其他損害賠償トシテ請求スル所
 ノ金額ハ債務者間如何ニ分擔スヘキカ例ヘハ六百圓ノ債務ニ付キ三人ノ
 連帶債務者アリ其分擔ノ方法ニ付キ甲ハ三百圓乙ハ二百圓丙ハ百圓ヲ負
 擔スヘキモノトセリ此場合ニ於テ生シタル特別ナル必要ノ費用六十圓ア
 リトスル時ハ其六十圓ハ如何ナル方法ニ從ヒ分擔スヘキカト云フニ此費
 用タル元來債務トハ異別メモノナリト雖モ各自分擔スヘキ債務ノ多寡ニ
 應スルヲ以テ至當ナリト信スルナリ
 然リ而シテ連帶債務者ハ相互ニ擔保スルモノナルカ故ニ求償ノ行ハレタ

ル當時ニ於テ其債務者中無資力者アリタルトキハ其無資力者ノ擔保ハ求
 償者ヲモ加ヘス他ノ有資力ナル債務者間ニ各自擔分ノ割合ニ應シテ之ヲ
 分擔セサルヘカラス然レトモ求償者カ辨濟ヲ了ヘタル後懈怠ニテ求償ヲ
 緩慢ニ付シ置キ其間ニ無資力者ヲ生シタル場合ナルトキハ求償者ノ懈怠
 ハ恰カモ其無資力者ヲ生セシメタル原因トモ云フコトヲ得ヘキヲ以テ斯
 ル場合ニ於ケル無資力者ノ擔分ハ求償者ノ責ニ歸スヘキハ當然ナリ第六
 十六條ノ法文中求償ノ行ハレタル當時ニ於テ云々トアルハ即チ求償者ノ
 辨濟ヲナシタル以前タルト其以後タルヲ問ハス求償權ヲ行ヒタル當時ニ
 アリテ無資力者ヲ生シ居リタルトキハ此規定ヲ適用スルコトヲ得ヘキヲ
 以テナリ

若シ又何等ノ辨濟モアラサル前ニ連帶債務者ノ一人カ無資力者トナリタ
 ルニヨリ債權者其債權ノ全額ニ付キ之カ清算ニ加ハリ幾分ノ辨濟ヲ受ケ
 タル場合アリトセンカ其辨濟ノ殘額ハ他ノ債務者ニ於テ其擔分ノ割合ニ
 從ヒ之ヲ負擔セサルヘカラス畢竟連帶債務者ハ互ニ擔保ヲナスモノダレ

對人擔保法 連帶債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力 連帶債務者相互ノ權利 三六一

ハナリ(第六十七條第二項)

右ノ如ク夫レ連帶債務者ハ辨濟其他自己ノ出捐ニヨリ共同ノ免責ヲ得セシメタルトキハ互ニ求償權ヲ有スト雖モ時ニ或ハ此ノ求償權ヲ失フコトナシトセス即チ連帶債務者ノ一人カ債權ノ全額若シクハ自己ノ擔分ヨリ超過セル額ニ付キ訴追ヲ受ケタル時ニ當リ有効ナル抗辯方法ヲ有スル他ノ債務者ヲ參加セシムルコトヲ怠リタル場合ノ如キ或ハ又免責ヲ得セシメタル債務者ニ於テ他ノ債務者ニ對シ其旨ヲ有益ニ通知スルコトヲ怠リ他ノ債務者カ時時^手知ラスシテ再ヒ辨濟シタル場合ノ如キ是レナリ(第六十五條)然レトモ此コトニ關ミテハ余ハ既ニ保證人ノ求償ノ失權ニ付キ講述シタル當時ニ於テ其詳細ヲ述ヘタルヲ以テ再ヒ茲ニ講述スルノ必要ナカルヘシ

又擔保訴權ハ固有ノ權利ノ外向ホ代位權ニ依リ之ヲ行フヲ得ヘシ(第六十四條)蓋シ余カ嘗テ述ヘタルカ如ク代位ハ他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔シタル場合ニ生スヘキモノニシテ而シテ其性質タル債權者カ債

務者ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘキモノ、外ハ此權利ニ因リテ求償スルコトヲ得サルヲ以テ辨濟ヲ爲スニ當リテ生シタル必要ノ費用其他ノ損害ニ至リテハ之ヲ請求スルコトヲ得サルハ勿論タリ然リ而シテ債務ヲ辨濟シタル債務者カ代位權ニ因リテ求償スルトキハ其債務ノ連帶ナルヲ口實ト爲シ何レノ債務者ニ對シテモ自己ノ擔分ヲ除キタル殘額ヲ求償スルコトヲ得ルカ如シト雖モ本來債務者ノ連帶ハ債權者ニ對スル義務ノ體様ニシテ債務者相互ニ對シテハ連帶アルコトナシ語ヲ換ヘテ云ヘハ債務者相互ノ間ニハ連合ナル性質ノ義務ヲ存スルノミ是レ本條ノ規定アル所以ナリトス最モ此場合ニ於テモ第三十二條及第三十三條ノ制限ニ從フヘキコト勿論タリ只茲ニ一ノ注意スヘキハ他ナラス余カ嘗テ述ヘタルカ如ク第三、所持者ハ保證人ニ對シテ代位權ヲ有セスト雖モ連帶債務者ニ對シテハ之ヲ有スヘシトノコト是レナリ是レ即チ保證人ハ其性質ニ於テ全ク他人ノ爲メニ迷惑ノ位地ニ立ツモノナルカ故ニ法律ハ之ヲ保護スト雖モ連帶債務者ニ至リテハ債權者ニ對シ各自ニ義務ノ全部ヲ負擔スル所ノ主タル

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力 連帶債務者相互ノ權利 三六三

債務者タレハ法律カ右ノ如キ保護ヲ與フルノ必要ナク又理由ナキニ依ルナリ

若シ又連帶債務者ノ無資力者トナリタル場合ニ於テハ辨濟ヲナシタル債務者ハ其如何ナル限度ヲ以テ其清算ニ加入スルコトヲ得ルヤ債權擔保編第六十八條ハ之ニ答ヘタリ蓋シ辨濟ヲナシタル債務者カ無資力トナリタル債務者ヨリ受取ルコトヲ得ヘキ部分ハ債權者ノ權利中ニ加ハリタルモノニアラサルヲ以テ其清算ニ加入シタレハトテ一ノ清算ニ對シ同一ノ債權ヲ數度加フルカ如キ不都合ヲ生スルコトナキカ故ニ其一部ノ辨濟ヲナシタル債務者ハ無資力トナリタル債務者ヨリ受取ルヘキ額ニ付キ他ノ債務者ト共ニ其清算ニ加入スルコトヲ得ヘキハ當然ノコト、云ハサルヘカラストトヘハ甲乙丙ノ三人連帶ニテ丁ナル債權者ニ對シ三千圓ノ債務ヲ負ヒ而シテ甲ハ丁ニ對シ債務ノ半額即チ千五百圓ヲ辨濟シタルノ後乙無資力者トナリタリトセンカ此場合ニ於テ丁ナル債權者ハ余カ既ニ講述シタルカ如ク債權ノ殘額千五百圓ニ付キ其清算ニ加入スルコトヲ得ヘシ然

リ而シテ此債務タル甲乙丙ノ三人間ニ均一ニ分擔スヘキモノナルニ甲ハ既ニ債權者ニ對シ千五百圓ヲ辨濟シタルヲ以テ千五百圓ヨリ三千圓ノ三分ノ一ヲ控除シタル殘額ハ乙丙兩人ニ對シ請求シ得ヘキ額ナルニヨリ乙ハ甲ニ對シテモ一ノ債務者タルヲ免カレサルハ勿論ニシテ甲ハ即チ二百五十圓ノ債權額ヲ以テ乙ノ清算ニ加入スルコトヲ得ヘキナリ之ニ反シテ何等ノ辨濟モアラサル前ニ連帶債務者ノ一人カ無資力トナリタルトキハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ清算ニ加ハリ若シ辨濟ニ不足アリタルトキハ其不足額ハ他ノ債務者ニ於テ分擔セサルヘカラスシテ而シテ其不足額ヲ分擔シタル自餘ノ債務者ハ債權者ト共ニ其清算ニ加入スルコトヲ得サルナリ何トナレハ此場合ニ於テハ債權者カ既ニ其債權ノ全額ニ付テ清算ニ加入シタルカ故ニ不足額ヲ分擔シタル債務者モ尙ホ之ヲ加入スルコトヲ得ルモノトセハ同一ノ債權カ數度同一ノ清算中ニ加ハルコト、ナリ結局自餘ノ債權者ヲ害スルニ至ルノ不都合ヲ生スヘケレハナリ(第六十七條第二項)

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ効力 連帶債務者相互ノ權利 三六五

メテ生スルモノナラサルヲ得サルナリ尤モ法律ノ規定ニ依リ連帶ヲ認ムル場合ハ格別ナリトス果シテ然リトセハ本條ノ如キハ特ニ之ヲ法文トシテ掲クルノ必要ナキニ似タリ殊ニ本條中自白ノコトヲ記載スト雖モ自白ノ證據法上其効力ヲ有スヘキハ自白者ノ不利益ナル陳述ナラサルヘカラス然ルニ本條云フ所ノ所謂自白ハ果シテ如何ナル場合ニ於テ自白者ニ不利益ノ陳述トナルヘキカ余ハ之カ適例ヲ發見スルニ苦シマサルヲ得ス何トナレハ連帶ニ就テノ自白ハ責任ヲ數人ニ分ツノ結果ヲ生スヘキ性質ノモノダレハ自白者ニ不利益ノ陳述ト云ハンヨリ寧ロ利益ノ陳述ト云フノ適當ナルヲ信スレハナリ

第五款 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益

ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付遲滯ヲナス原因若クハ時効停止ノ原因ノ他ノ債務者ニ及ホスヘキ効果者ニ及ホスヘキ効果

連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付遲滯ヲナス原因若クハ時効停止ノ他

連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付遲滯ヲナス原因若クハ時効停止ノ原因ノ他ノ債務者ニ及ホスヘキ効果ニ就テハ債權擔保編ハ

ノ債務者ニ及ホスヘキ効果

之ヲ其ノ第六十一條ニ規定シタリ蓋シ該條第一項ノ主意タル即チ連帶債務者ノ一人ニ對シテナサレタル時効ノ中斷及付遲滯ノ行爲ハ他ノ債務者ニ對シテモ同一ノ効力ヲ有スルヲ以テ債權者ニシテ若シ時効ヲ中斷シ若クハ債務者ヲ遲滯ニ付スルコトヲ欲スルトキハ債務者ノ總員ニ對シテ其手續ヲナサストモ其中ノ一人ニ對シテ之ヲナセハ可ナリトノ意ナリトス是レ畢竟余カ屢々述フルカ如ク連帶債務者ハ相互ニ代理スルモノニシテ利害共ニ其影響ヲ蒙ムルヘキモノダリトノ原則ヨリ生スル結果タルニ過キス然リ而シテ其第二項ニハ債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時効ノ進行スルコトヲ妨クストアリテ即チ連帶債務者中或ハ有期或ハ無期ト云フカ如ク各々異ナリタル體様ヲ以テ義務ヲ負ヒタルトキハ其中ノ一人ニ對シテハ時効進行スルモ他ノモノニ對シテハ時効ノ停止スルコトアルヘクシテ而シテ其時効ノ停止タル結局債權者ノ利益ナレハ其停止サレタル部分ニ對シテノミハ停止セラレ停止セラレサル部分ニ於ケル時効ハ依然トシテ進行スヘシト云フノ意ナリトス是レ畢竟連帶義務者ハ別異及不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責

對人擔保法

連帶債務者間ノ連帶債務者間ノ効力 連帶債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷シ又ハ付遲滯ヲナス原因若クハ時効停止ノ原因ノ他ノ債務者ニ及ホスヘキ効果

債務者間
連帶ノ
終了
債權者ノ
任意ノ
拋棄

ニ任スルコトヲ得ルモノトナセルヨリ生スル必然ノ結果ナリトス何トナレハ連
帶債務者中別異及不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルモノアルニアラサレ
ハ前述ノ如ク一ハ時効ヲ停止シ一ハ之ヲ停止セサルカ如キ原因ノ生スヘキ理由
ナケレハナリ

第三節 債務者間ノ連帶ノ終了

第一款 債權者ノ任意ノ拋棄

抑モ連帶ハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク義務ノ體様ノ一種ナルモ其體様タル債權者
ノ權利ヲ鞏固ナラシメ之ニ與フルニ大ナル利益ヲ以テスルモノナルカ故ニ債權
者ニシテ其利益ヲ拋棄セント欲セハ自由ニ之ヲ拋棄シ得ルハ勿論ノコトニ屬シ
普通ノ利益拋棄ノ場合ト更ニ異ナルコトナシ殊ニ債權擔保編ハ其拋棄ノ方法ニ
付キ何等ノ制限モ之ヲ設ケサルカ故ニ普通ノ權利拋棄ノ場合ト同シト明示又ハ
默示ニテナスコトヲ得可シ蓋シ明示ノ拋棄トハ證書等ヲ以テ明カニ意思ヲ顯ハ
シタル拋棄ヲ云ヒ默示ノ拋棄トハ種々ノ事情ヨリ意思ヲ推定シタル拋棄ヲ云フ
ナリ而シテ此默示ノ拋棄ニ就テハ債權擔保編ハ其第七十一條ニ於テ財産編第五

百十條ニ定ムル所ノ三個ノ場合ニ限り連帶ヲ拋棄シタルモノト看做スノ意ヲ示
セルカ如シ其所謂三個ノ場合トハ何ソヤ即チ(第一)債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セ
スシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取
リタルトキ(第二)債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ債務者ノ一人ニ對シ其債
務ノ部分ナリト稱シテ裁判上ノ請求ヲナシタルニ其一人請求ニ承服シ又ハ辨濟
ヲナスヘキノ言渡ヲ受ケタルトキ(第三)債權者カ異議ヲ留メスシテ十箇年間引續
キ其債務者ノ一人ヨリ其負擔スヘキ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取りタルトキ是レ
ナリ債權擔保編第七十一條ニハ財産編第五十條ニ從ヒ明示又ハ默示ニテ云々
トアレトモ其第五十條ニハ明示ノ拋棄ノコトヲ規定セサルヲ以テ右第七十一
條中財産編第五十條ニ從ヒトアルハ默示ノ場合ノミニ適用スヘキモノニシテ
明示ノ場合ニ關係ナキコトハ明白ナリ蓋シ疎漏タルヲ免カレス然ラハ即チ右等
默示ノ拋棄ヨリシテ如何ナル結果ヲ生スヘキカト云フニ他ナラス其拋棄ヲ受ケ
タル債務者ニハ他ノ債務者ノ擔分ヲ連帶ニテ訴追セラル、コトヲ免レシメ而シ
テ他ノ債務者ニハ拋棄ヲ受ケタル債務者ノ擔分ニ付キ連帶ニテ訴追セラル、コ

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債權者間ノ連帶ノ終了 債權者ノ任意ノ拋棄 三七一

トナ免レシムルニアラサレハ連帶債務者二人ナル場合ニ一人カ拋棄ヲ受ケタルトキハ連帶ハ自カラ消滅ニ歸スヘキナリ
以上ハ即チ一般ニ連帶ノ拋棄ノ何タルコトヲ説明シタルニ過キス然ルニ此所謂拋棄ハ明示タルト默示タルトナ間ハス連帶債務者ノ總員ニ對スル場合ト其一人又ハ數人ニ對スル場合トニ依リ大ニ効果ヲ異ニスルヲ以テ左ニ之ヲ區別シ其大要ノ説明ヲナスヘシ

第一、債權者カ債務者ノ全體ニ對シ拋棄シタル場合

債權者カ債務者ノ全體ニ對シ連帶ヲ拋棄シタル場合ニ於ケル効果ニ就テハ債權擔保編ハ之ヲ其第七十條ニ規定セリ本來連帶ハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク連合ノ變體ニ屬スルカ故ニ其變體タル連帶ニシテ既ニ終了スル以上ハ殘ル所ハ連合トナラサルヘカラサルハ理ノ當然ナリトス蓋シ連帶ノ拋棄ハ單ニ債權者カ自己ノ權利ニ對スル擔保ヲ拋棄シタルマテニ止マリテ其權利自身ニハ更ニ増減消長アルコトナキハ勿論ナルカ故ニ若シ連帶債務者中或ハ條件附ノ債務ヲ負擔シ或ハ

夫

七

他ノ者ヨリ重大ナル義務ヲ負擔スル等ノコトアルモ是等ノ債務者ハ連帶ノ拋棄ニヨリ連帶ノ責ハ之ヲ免ル、コトヲ得ルモ其條件附又ハ重大ナル負擔等ニ至リテハ更ニ變セラル、コトナシ法文中債務者ノ義務ハ單ニ連合ノモノトナリテ存シ其他ノ性質ヲ變スルコトナシトアルハ即チ前述ノ精神ニ外ナラス而シテ其他ノ性質トアルハ即チ債務者各自ニ關スル義務ノ性質ト云フノ意ナリト知ルヘキナリ

第二、債權者カ債務者ノ一部ニ對シ連帶ヲ拋棄シタル場合

債權者カ債務者ノ一部ニ對シ連帶ヲ拋棄シタル場合ニ於ケル効果ニ就テハ債權擔保編ハ之ヲ其第七十一條ニ規定セリ即チ知ルヘシ此場合ニ於テハ連帶ノ拋棄ヲ受ケタル者ハ單獨ナル債務者ト變シ其拋棄ヲ受ケサル債務者間ニハ拋棄ヲ受ケタル者ノ擔分ヲ控除シタル殘餘ノ債務ニ付キ連帶ノ關係依然トシテ存在スルモノナルヲ例ヘハ甲、乙、丙ノ三人連帶ニテ三千圓ノ債務ヲ負ヒ甲獨リ其連帶ヲ拋棄セラレタリトセンカ甲ハ即チ自己ノ擔分タル一千圓ニ付キ單獨ナル債務者ト

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ終了 債權者ノ任意ノ拋棄 三七三

ナリタルヲ以テ乙丙ノ兩人ハ甲ノ擔分ヲ除キタル殘餘額二千圓ニ付
 キ依然連帶ノ義務ヲ負フカ如シ若シ又拋棄ヲ受ケサル債務者中ニ無
 資力者ヲ生シタルトキハ如何スヘキカト云フニ此場合ニ於テハ連帶
 ノ拋棄ヲ受ケタル債務者カ若シ拋棄ヲ受ケサリシナラハ其無資力ト
 ナリタル者ノ擔分ヲ分擔セサルヘカラサル丈ケノ額ヲ控除シ殘餘ハ
 他ノ有資力ナル連帶債務者ニ於テ分擔スルモノトス語ヲ換ヘテ云ヘ
 ハ無資力トナリタル者ノ擔分ハ連帶ノ拋棄ヲ受ケタル者ナキ場合ト
 同一ニ之ヲ分割シ連帶ノ拋棄ヲ受ケタル者ノ分擔分ハ債權者ノ損失
 ニ歸セシメ連帶ノ拋棄ヲ受ケサル債務者ハ其拋棄ヲ受ケタル者ノ分
 擔分ヲ除キタル殘餘額ニ付キ分擔スルニ過キサルナリタトヘハ甲乙
 丙丁ノ四人連帶ニテ四千圓ノ債務ヲ負ヒ甲獨リ其連帶ヲ拋棄セラレ
 タル後乙無資力トナリタリトセンカ乙ノ擔分タル一千圓ハ之ヲ三分
 シ其一分ヲ債權者ノ損失ニ歸スルモノトナシ殘餘二分ハ丙丁ノ二人
 ニテ分擔スルカ如シ然ラハ即チ此場合ニ於テ乙ノ無資力トナリタル

七九

ニ付キ甲ノ分擔分ハ何カ故ニ債權者ノ損失ニ歸セシムヘキモノナル
 ヤト云フニ他ナラス債權者ハ自由ニ連帶ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシト
 雖モ其之ヲ拋棄シタルカ爲メニ他人ヲ害スルコトヲ得ス而シテ若シ
 其分擔分ヲ甲ニ負擔セシムルコト、ナサンカ連帶ノ關係ノ既ニ解除
 シタル者ニ對シテ連帶ヨリ生スル結果ヲ強ユルニ至ルノ不都合ニ陷
 ルヘキヲ以テナリ

七九

擔保物ノ
 毀損又ハ
 滅失

第二款 擔保物ノ毀損又ハ滅失

擔保物ノ毀損又ハ滅失ニ依リ債務者ノ連帶ノ終了スルコトニ就テハ債權擔保編
 ハ之ヲ其第七十二條ニ規定セリ是即チ保證ノ場合ニ於ケル第四十五條ノ規定ト
 同一ノ精神ニ出タルモノタルコト明カナリ畢竟連帶義務ハ其義務者ノ各自カ債
 權者ニ對シテ全部ヲ辨濟スルニ付テ其權利ヲ鞏固ナラシムルノ點ニ於テ保證ト
 異ナルコトナケレハ法律上擔保物ノ毀損又ハ滅失ニ付キ連帶債務者ニ與フルニ
 保證人ト同一ノ權利ヲ以テシタルノミ唯彼レ此レ相異ナルノ點ハ他ナラス第四
 十五條ニ於テハ債權者カ故意又ハ懈怠ニテ保證人ノ其代位ニ因リテ取得スルコ

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 債務者間ノ連帶ノ終了 擔保物ノ毀損又ハ滅失 三七五

トキ得ヘキ擔保ヲ滅シ又ハ害シタルトキハ總テノ保證人ハ債務者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得トアルカ故ニ保證人ハ擔保物ノ一部ノ消滅ニテモ全部ノ免責ヲ請求スルコトヲ得ルモ第七十二條ニ依レハ連帶債務者ハ其擔保ヲ供シタル者ノ部分ニ付キ連帶ノ義務ヲ免カレント請求スルコトヲ得ルニ在リ此差異ノ因リテ生スル所以ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ對シテ供スル擔保タル其目的自己ノ債務ヲ擔保スルニ在リト雖モ債權者ニ取リテハ債務者ノ一人ニ對シテ債務ノ全部ヲ請求シ得ルヲ以テ一人ノ供シタル擔保ハ債務ノ全部ニ對スル擔保タリ然レトモ是レ單ニ債權者ト連帶債務者トノ間ニ於テノミ云フヘクシテ債務者相互ノ間ニ在リテハ各自ノ擔分アルカ故ニ其債權者ニ對シテ供シタル擔保ハ其之ヲ供シタル者ノ擔保ニシテ從ヒテ其擔保ノ毀損又ハ滅失スルコトアルモ他ノ債務者ハ其之ヲ供シタル其ノ擔保ノ外免責ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テナリ然リ而シテ此場合ニ於ケル免責ノ效果ハ任意ノ拋棄ヨリ生スル效果ト同一ナルヲ以テ別ニ茲ニ説明スルノ必要ナカルヘシ第七十二條第二項ニ連帶ノ任意ノ免除トアルハ即チ任意ノ拋棄ノ意ナリト知ル可シ

全部義務

全部義務ノ性質

第四節 全部義務

第一款 全部義務ノ性質

全部義務ハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク數人ノ債務者ノ各自カ債權者ニ對シテ全部ノ債務ヲ負擔スルモ債務者相互ノ間ニ代理ノ關係ナキ義務ノ體様ヲ云フナリ故ニ其債務者ノ間ニ代理ノ關係ナキ一點ヲ除ク外ハ連帶義務ト其性質ニ於テ異ナルコトナシサレハ連帶義務ノ場合ニ代理ノ關係ヨリ生スル諸種ノ効力ハ此全部義務ニハ全ク適用スルコトヲ得サルナリ(第七十三條第一項)夫レ斯ノ如ク全部義務ハ連帶義務ト殆ト其性質ヲ同シスルヨリ之ヲ以テ連帶ノ特別ナルモノト爲シテ債務者間ノ連帶ノ章ニ規定スルコト、ハナシタリ然ラハ即チ全部義務ハ如何ナル場合ニ生スヘキヤト云フニ財産編第三百七十八條ニ本節(即チ不正ノ損害ノ節)ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所爲ニ付キ責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付キ義務ヲ負擔ストアリ又同編第四百九十七條第二項ニ第三者ノ隨意干涉ノ場合ニ於テ債權者カ舊債務者ヲ免シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ反セル場合ニ於テハ單一ノ補約成

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 全部義務 全部義務ノ性質

リテ債権者ハ債務ノ全部ニ付キ第二ノ債務者ヲ得然レトモ此債務者ハ連帯ノ義務ニ任セストアルカ如キ場合ニテ常ニ法律ノ規定ニ依ルモノナルコト明カナリ此故ニ債務者間各自ノ負擔ハ常ニ均一ナラサルヘカラス

全部義務ノ効力

第二款 全部義務ノ効力

全部義務ニ付テハ債権者ハ連帯義務ノ場合ト同シク其債権ヲ満足セシメンカ爲メ債務者ノ一人ニ對シテモ亦債務者ノ總員ニ對シテモ債務ノ全部ヲ請求スルコトヲ得ヘシ語ヲ換ヘテ云ヘハ債権者ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部履行ノ要求ヲナスヲ得從テ又債務者ノ各自ハ債権者ニ對シテ全部ノ履行ヲ受クルコトヲ強要スルヲ得ヘシ然レトモ債務者ノ間ニハ代理ノ關係ヲ認メサルカ故ニ全部ノ辨濟ヲ爲シタル所ノ債務者ハ他ノ債務者ニ對シテ代理ヨリ生スル求償權ヲ有スルコトナクシテ單ニ事務管理又ハ代位ニ因ルノ求償權ヲ有スルノミ即チ債權擔保編ニモ其第七十三條第二項ニ之ヲ規定セリ此規定ヨリ連帶義務トノ間ニ左ノ區別ヲ生ス可シ

一、連帶義務ノ場合ニ在リテハ債務者ノ一人カ訴追セラレタルトキハ他ノ債務

ニ

者ヲ訴訟ニ參加セシムルカ爲メニ延期抗辯ヲ爲スコトヲ得ルモ全部義務ノ場合ニ在リテハ之ヲ爲スコトヲ得ス是レ即チ彼レニハ他ノ債務者ヲ代理スルノ資格アレトモ是レニハ其資格ナクシテ全ク自己ノ債務ノ爲メニ訴追ヲ受ケタルコト、ナレハナリ

三

二、連帶義務ノ場合ニ在リテハ訴追ヲ受ケタル債務者カ無能力又ハ承諾ニ瑕疵アリトノ抗辯ヲ爲シ有効ナルトキハ其者ノ擔分ハ全債務中ヨリ控除スルコトヲ得ヘキモ全部義務ノ場合ニ在リテハ之ヲ控除スルコトヲ得スシテ他ノ訴追ヲ受ケタル債務者カ其全部ヲ辨濟セサルヘカラス是レ又債務者ノ各自カ他ノ代理ノ爲メニアラスシテ全ク自己ノ債務トシテ全部ヲ負擔スレハナ

三、連帶義務ノ場合ニ在リテハ其債務者ノ一人ニ對シテ有リタル判決又ハ其一人ノ爲シタル自白カ利害共ニ他ノ債務者ニ其効果ヲ及ホスモ全部義務ノ場合ニ在リテハ然ラス畢竟全部義務ノ債務者間ニハ代理ノ關係ナキカ故ナリ
四、連帶義務ノ場合ニ在リテハ其債務者ノ一人ニ對シテ爲シタル時効ノ中斷又

對人擔保法 連帶 債務者間ノ連帶 全部義務 全部義務ノ効力

ハ付遲滯ノ所爲ハ其効果ヲ他ノ債務者ニ及ホス可キモ全部義務ノ場合ニ在
 リテハ然ラス是レ亦前項ト同一ノ理由ニ依ルナリ
 五、連帶義務ノ場合ニ在リテハ債務者ノ一人ノ過怠ノ責任ハ他ノ債務者ニモ其
 影響ヲ及ホスモ全部義務ノ場合ニ在リテハ然ラス是レ亦前項ト同一ノ理由
 アレハナリ

第三章 債權者間ノ連帶

第一節 債權者間連帶ノ性質及原因

債權者間ノ連帶ハ其性質ニ於テハ債務者間ノ連帶ト更ニ異ナルコトナク只一ハ
 權利ノ連帶ナルト一ハ義務ノ連帶ナルトノ差アルノミスノ如ク夫レ債權者間ノ
 連帶ナルト債務者間ノ連帶ナルトヲ問ハス其連帶タル性質ニ於テハ異ナルコト
 ナシト雖モ連帶者相互ノ權限ニハ多少範圍ニ廣狹ノ差アルカ如シ蓋シ債務者間
 ノ連帶ニ在リテハ廣ク義務ヲ履行スルコトニ付キ相互ニ代人タルモノナレトモ
 債權者間ノ連帶ニ在リテハ權利ノ保存及ヒ行使ニ付キ相互ニ代人トナルニ過キ
 ス(第七十四條)然レトモ是レ只連帶者相互ノ權限ニ於ケル範圍ノ差異ニ過キサレ

債權者間
 連帶ノ性質
 及原因

ハ適用スル所ノ規定ニ至リテハ債務者間ノ連帶ノ場合ト殆ント異ナル所ナキニ
 債權擔保編ハ債權者間ノ連帶ニ關シ債務者間ノ連帶ト重覆シテ種々ノ規定ヲ設
 ケタリ思フニ煩ニ失スルカ如シ尤モ連帶ノ成立ハ之ヲ推定スヘカラストノ一事
 ハ如何ナル理由ナルカハ知ラサレトモ債務者間ノ連帶中ニ規定シテ之ヲ債權者
 間ノ連帶ニモ適用スルモノトセリ蓋シ第五十三條第三項ニ連帶ハ推定セストア
 ルハ債務者間ノ連帶ノコトヲ規定セル條項中ニ屬スルヲ以テ通常ヨリスレハ之
 ナ狹義ニ解シ單ニ債務者間ノ連帶ニ付テノ規定トスルヲ當然トナスヘシト雖モ
 債權者間ノ連帶ノコトヲ規定セル條項中別ニ此規定ナキノミナラス該項ノ法文
 中單ニ連帶トアルヲ以テ之ヲ見ルモ寧ロ該項ノ法文ハ廣義ニ解シテ債權者間ノ
 連帶ニモ亦適用スルモノトナサ、ルヘカラス現ニ草案者ニ於テモ其注釋ニ該項
 ハ之ヲ債權者間ノ連帶ニモ適用スヘキモノタルコトヲ明言セリ

偕又第七十五條ニハ債權者間ノ連帶ニ於テモ債務者間ノ連帶ト同シク其義務ノ
 目的及原因サヘ同一ナレハ連帶債權者ニ對スル債務者ノ約務ハ同一ノ行爲ヲ以
 テ又同時ニ同所ニ於テ契約スルノ必要ナキモノトセリ此規定ニシテ果シテ正確

對人擔保法 連帶 債權者間ノ連帶 債權者間ノ連帶ノ性質及原因

ノモノナリトセハ第五十三條ト併合一トナシテ可ナルヘシ何トナレハ彼レハ數人ノ債務者ノ連帶義務ノコトヲ規定シ此レハ數人ノ連帶債務者ニ對スル債務者ノ義務ノコトヲ規定シタルマテニシテ其實同一ノ事柄ニ屬スレハナリ然レトモ合意ノ異ナリタル場合ニ連帶スル債權者アリトハ甚タ奇怪ノ思ヒナキ能ハス又債務者カ數人ノ債權者ニ對シ別異及ヒ不均一ノ體様又ハ負擔ヲ以テ責ニ任スルコトヲ得トアルモソハ如何ナル場合ヲ指示スルニヤ想像ニ苦シマサルヲ得ス思フニ余カ既ニ述ヘタルカ如ク債權者相互ノ連帶ハ權利ノ保存及行使ニ關スルモノトナスカ故ニ別異ノ權利ヲ有スル債權者カ其行使ト保存トニ付キ相互間特別ノ契約ヲ爲シ債務者ノ承諾ヲ經ル場合ヲ想像シタルコトナランカ果シテ然リトセハ此場合ハ特別ニ權利ノ保存及行使ニ付キ別個ノ契約ヲ爲シタルモノニシテ取リモ直サス債務ニ關スル契約ノ外ニ債權者間ニ新ナル契約ヲ生シタルモノナリサレハ本條第二項ハ單一ノ契約ノミニテハ此場合ヲ生スルモノニアラスト知ラサルヘカラス蓋シ斯ル場合ハ實際稀ナルヘキハ勿論余ハ寧ロ實際ニ之ナキヲ信スルナリ然ラハ則チ債權者ノ連帶ヲ生スル原因ハ如何ト云フニ債權擔保編

第七十四條ノ末尾ニ於テ此連帶ハ合意又ハ遺言ヨリ生スト規定セリ本來債務者間ノ連帶ニ在リテハ此外ニ尙ホ法律ノ規定セル一原因ヲ加ヘ又債權擔保編ノ草案ニハ債權者間ノ連帶モ亦債務者間ノ連帶ト同シク合意及遺言ノ外法律ノ規定ヨリ生スルコトアルヲ規定シタリ然ルニ債權擔保編ニハ此一原因ヲ削除シタル所以ノモノハ思フニ債權擔保編ニテハ別ニ法律ニ因リテ債權者間ノ連帶ヲ設クルノ必要ナキノミナラス若シ之ヲシモ此場合ニ於ケル原因トナストキハ債務者ニ對シ甚タ苛酷ニシテ債權者ニ對シテハ之ヲ保護スルノ厚キニ過クル結果ヲ生ス可キヲ慮リタレハナリ例ヘハ債權者間ニ連帶アルトキハ其中ノ一人カ債務者ニ對シ時効ヲ中斷シ若クハ債務者ヲ遲滯ニ付セハ他ノ債權者ヲ利スヘシト雖モ合意モ遺言モナキニ法律上ヨリ斯ル効果ヲ生セシムルトキハ債務者ニ酷ニシテ債權者ニ厚キノ結果ヲ生スルカ如シ然レトモ之ヲ以テ一ノ原因トスルコト爲シ得サルニアラサルカ故ニ他ノ法律ニ於テ若シ債權者ノ連帶ヲ設クルノ必要アルトキハ之ヲ設クルモ更ニ妨ケアルコトナシ果シテ然リトセハ債權者間連帶ノ原因ニ關スル規定ハ之ヲ債務者間連帶ノ原因ニ關スル規定ト合併シテ一トナシ單

對人擔保法 連帶 債權者間ノ連帶 債權者間ノ連帶ノ性質及原因

ニ連、帶、ハ、合、意、遺、言、又、ハ、法、律、ノ、規、定、ヨ、リ、生、ス、ト、セ、ハ、寧、ロ、簡、便、ナ、ル、可、シ、若、シ、又、債、權、擔、保、編、中、現、ニ、法、律、ノ、規、定、ヨ、リ、生、ス、ル、債、權、者、間、ノ、連、帶、ナ、キ、ニ、其、之、ヲ、生、ス、ル、原、因、中、ニ、法、律、ノ、規、定、ヲ、加、フ、ル、ハ、不、可、ナ、リ、ト、ナ、シ、別、ニ、斯、ル、法、文、ヲ、置、キ、タ、ル、モ、ト、セ、ン、歟、他、ニ、斯、ル、法、文、ノ、例、多、キ、ヲ、何、如、セ、ン、例、ハ、用、益、權、ハ、目、下、存、在、ス、ル、法、律、中、ニ、ハ、其、規、定、ニ、因、リ、テ、設、定、ス、ル、モ、ノ、ナ、キ、ニ、財、產、編、第、一、部、中、ニ、ハ、用、益、權、ハ、法、律、ニ、因、リ、テ、設、定、ス、ル、コ、ト、ア、リ、ト、規、定、セ、ル、カ、如、シ、

第二節 債權者間ノ連帶ノ効力

第一款 連帶債權者ノ債務者ニ對スル權利

連帶債權者カ債務者ニ對シテ有スル權利ノ普通ノ債權ト異ナルノ點ハ他ナラス即チ數人ノ債權者ノ中一人カ一債務者ニ對シテ恰モ己レ一人債權者タルカ如ク其債務者ニ對シテ債務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得ルニ在リ是レ連帶ハ相互ニ代理ストノ原則ヨリ生スル結果ニシテ深キ理由アルニアラサルナリ(第七十六條第一項)去リナカラ連帶債權者ノ一人カ義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得ルハ其一人ノ債權者自己ノ特有ニ依リテ然ルニアラス其特有トシテ要求スルコトヲ得

債權者間ノ連帶ノ効力
連帶債權者ノ債務者ニ對スル權利

債務者ノ連帶債權者ニ對スル權利

ル金額ハ自己ノ權利ニ屬スル部分ノミニシテ其他ノ債權額ハ他ノ債權者ノ代理ニ依リテ要求シ得ルモノナルコト勿論ナリ

第二款 債務者ノ連帶債權者ニ對スル權利

債務者ハ連帶債權者ニ對シテ普通ノ抗辯方法ヲ有スヘキハ勿論尙ホ全部ノ辨濟ヲ強要スルコトヲ得ヘシ而シテ本法ノ規定ニ依レハ任意ニ辨濟スル場合ト債權者ノ訴追又ハ要求ヲ受ケテ辨濟スル場合トニ依リテ大ナル差異アリ而シテ此事ニ關シテハ債權擔保編ハ之ヲ其第七十七條ニ規定セリ仍テ追次此各場合ニ付キ講述スル所アルヘシ

(甲) 任意ニ辨濟スル場合

抑モ連對債權者中ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケサル間ハ債務者ハ債權者中何人ニ對シテモ債務全部ノ辨濟ヲナスヲ得ヘキハ勿論之ヲ強要スルコトヲ得ヘシ蓋シ連帶債權者ハ相互ニ代理ヲ爲スモノタレハ其中ノ一人ニ對スルモ猶ホ全體ニ對スルト同一ノ結果ヲ生スヘケレハナリ人或ハ曰ク債務者カ連帶債權者中ノ一人ニ對シテ債務全部ノ辨濟ヲ強要シ得ル所以ノモノハ連

對人擔保法

連帶債權者間ノ連帶ノ効力
連帶債權者ノ債務者ニ對スル權利

帶債權者ハ各自ニ債權全部ノ本主トナルモノナレハナリト果シテ然ルトキハ連帶ハ恰モ全部ト同一ノモノトナルニ至ル可シ豈ニ斯クノ如キコトアラ

乙 訴追又ハ要求ノ後辨濟スル場合

訴追又ハ要求アリテ後辨濟スル場合ニ於テ若シ追訴者又ハ要求者カ一人ナルトキハ本法ハ單ニ其人ニ向テハミ辨濟スルコトヲ得ヘキモノトセリ本來債務者ハ連帶ノ債權ヲ有スル者ニ對シテ何人ニテモ辨濟スルコトヲ得ルモノナルヘキニ此場合ニ限リ訴追者又ハ要求者ト限リタルハ抑モ亦如何ナル理由ナルカ草案者ノ説明ニ依レハ斯ル場合ニ於テ若シ他ノ債權者ニ辨濟スルコトヲ許スニ於テハ債務者ハ他ノ債權者ト相通謀シ訴追又ハ要求シタル債權者ヲ害スルコトナキヲ保ス可カラサルノミナラス辨濟ヲ受ケタル債權者カ無資力ナルトキハ獨り自カラ之ヲ消費スルノ危險アリ殊ニ債權者ノ連帶ハ即チ債權者ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノニシテ訴追又ハ要求シタル債權者ハ他ノ債權者ノ利益ニ於テ代人タルモノナレハ債務者ノ爲メニ左右セ

ラルヘキモノニアラストナスニ在ルカ如シ然レトモ此理由タル甚ダ解ス可カラス何トナレハ訴追又ハ要求ヲナシタル債權者外ノ債權者ニ辨濟ヲ許ストキハ債務者他ノ債權者ト共謀シテ訴追又ハ要求ヲ爲シタル債權者ヲ害スルノ恐レアリトナスカ如キ又辨濟ヲ受ケタル債權者カ消費スル恐レアリトナスカ如キハ訴追又ハ要求ヲナシタル債權者モ亦均シク此恐レアルモノト云ハサル可カラス又訴追又ハ要求ヲ爲シタル債權者ハ他ノ債權者ノ利益ニ於テ代人ナリト云フモ是レ獨リ訴追又ハ要求ヲ爲シタル債權者ニ限ルニアラサルヘケレハナリ此説明タル未ダ以テ充分ノモノトナスヲ得サルナリ若シ夫レ強ヒテ之カ理由ヲ求ムレハ本來連帶債權者ハ權利ノ保存及行使ニ付キ相互ニ代理ヲ爲スモノナリト雖モ其實自己ノ利益ノ爲メニ他ノ債權者ヲ代理スルモノダレハ此代理權ニ依リ利益ヲ計ル場合ニ於テハ妄リニ之ヲ妨害スルヲ得ストノ意ヨリ法律ハ此利益ノ點ニ重キヲ置キ以テ斯クノ如キ規定ヲ置キタルモノト解スルノ外ナカル可シ況ンヤ訴追債權者又ハ要求者ニ於テ債權者ヨリ辨濟ヲ受ケタルトキ之ヲ他ノ債權者ニ分與セサルカ或ハ無

對人擔保法

連帶債權者間ノ連帶債權者間ノ連帶ノ効力
連帶債權者ノ債務者ニ對スル權利

資力ト爲ル等ノ危険アル場合ニハ第七十六條第二項ニ依リ他ノ債權者ハ何時ニテモ其訴訟ニ參加シテ危険ヲ防禦スルコトヲ得ルニ於テオヤ然ラハ即チ訴訟者又ハ要求者同時ニ二人已上アリタルトキハ其辨濟方法ハ如何ト云フニ矢張り前述ノ理由ニ依リ其訴追又ハ要求ヲ爲シタル者ノ總テニ對シテ辨濟ヲ爲ス可キモノトセリ是レ即チ第七十七條第二項ノ規定スル所ナリトス然リ而シテ法文中訴追者トアルハ參加人モ包含スルヤ否ヤト云フニ參加人中ニモ主參加人從參人ノ區別アリ民事訴訟法第五十一條ニ依レハ主參加人ハ明ラカニ訴追者ト云フコトヲ得ヘキモ從參加人ニ至リテハ同法第五十三條ニ規定セルカ如ク唯訴訟對手ノ一方ヲ補助スル爲メニ參加スルニ過キサルモノナレハ訴追者トナスコトヲ得サルカ如シト雖モ從參加人モ自カラ補助シタル訴訟ノ如何ニ依リテハ獨立ニ上訴スルコトヲ得ルノ點ヨリ見レハ訴追者中ニ包含スルモノトナシテ可ナルカ如シ又法文中合式ノ要求トアルハ即チ執達吏等ノ手ヲ經テ爲ス所ノ要求ヲ云フナリ故ニ只口頭又ハ書狀若クハ一個人ヲ以テ催促シタルカ如キハ合式ノ要求ニアラサルヲ以テ其後

連帶債權者相互ノ權利

ニ辨濟スルコトアルモ是レ任意ノ辨濟タルニ外ナラサルコト、知ル可シ

第三款 連帶債權者相互ノ權利

連帶債權者ハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク其權利ノ行使及保存ニ付キ相互ニ代理人タリ從テ各自カ唯一人ノ債權者ナルカ如ク債務者ニ對シ義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得ヘキモ其請求ニ依リ辨濟ヲ受ケタル利得又ハ任意ニ依リ辨濟ヲ受ケタル利得ハ自己ノ權利ニ基ツクモノト代理ヨリ生スルモノトアルカ故ニ其代理ヨリ生スル部分ハ必ス之ヲ本人タル他ノ債權者ニ分與セサルヘカラス(第八十二條)第八十二條ノ法文中特別ノ關係及其相互ノ部分ニ從ヒトアルハ連帶債權者中相互ノ間ニ債權ノ割合ヲ異ニシ或ハ權利ノ關係異ナルコトアルヲ以テナリ即チ一人ノ權利ハ條件附ナルモ他ノ一人無條件ナルモノモアルヘク或ハ一人ハ三分ノ一ノ債權ヲ有シ一人ハ三分ノ二ノ債權ヲ有スルカ如キ是レナリ要スルニ連帶債權者ハ債務者ニ對シテハ各自債權ノ全部ニ付キ權利ヲ有スト雖モ連帶債權者間ノ關係ニ於テハ各自ノ債權ノ部分ニアラサレハ權利ヲ有セサルナリ斯ノ如ク夫レ義務ノ全部又ハ一分ノ履行ヲ得タル連帶債權者ハ他ノ債權者ノ特別ノ關

對人擔保法 連帶 債權者間ノ連帶 債權者間ノ連帶ノ効力 連帶債權者相互ノ權利 三八九

係及其相互ノ部分ニ從ヒ分與スルコトヲ要スルカ故ニ又他ノ債權者ハ特別ノ關係及各自ノ部分ニ從ヒ右ノ履行ヲ得タル債權者ニ對シテ分與ヲ請求スルノ權利ヲ有ス可キハ勿論タリ其他債權者ノ一人カ訴ヲ起シタルトキハ他ノ各債權者ハ其訴訟ニ參加スルノ權利ヲ有スルコトニ付テハ第七十六條第二項ニ規定シタリ畢竟債權者間連帶ノ結果トシテ其一人カ債務者ヲ訴追シタル場合ニ訴追者ト債務者トノ間ニアリタル判決ノ効果ハ利害共ニ他ノ債權者ニ及フヘキヲ以テ法律ハ連帶債務者ニ訴訟ノ參加權ヲ與ヘタルト同シク連帶債權者ニモ之ヲ與ヘタルノミ唯茲ニ注意ス可キハ第五十六條連帶債務者ノ訴訟參加ニ付テノ規定ニハ訴追ヲ受ケタル債務者カ他ノ債務者ヲ參加ノ爲メ召喚スルコトヲ得ヘキコト並ニ共同債務者カ自カラ參加スルトキハ自費ヲ以テス可キコトヲ明示シタルニ拘ラズ第七十六條第二項ニハ是等ノコトニ關シ何等ノ規定モナキコト是レナリ然レトモ該項ノ規定ニシテ果シテ第五十六條ノ規定ト同一ノ精神ニ出タルモノナリトセハ訴追ヲ爲シタル債權者ハ他ノ債權者ヲシテ其訴訟ニ參加セシムルコトヲ得ヘキハ勿論自カラ參加スルトキハ自費ヲ以テセサルヘカラサルコト當然ナル

訴追ヲ爲シタル連帶債務者ト債務者トノ間ニ基本抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホス可キ効果

第四款 訴追ヲ爲シタル連帶債權者ト債務者トノ間ニ基本抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホス可キ効果

訴追ヲ爲シタル連帶債權者ト債務者トノ間ニ基本抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホス可キ効果ニ付テハ本法ハ之ヲ二類ニ區別シテ規定シタルニ因リ余モ亦其順序ニ從ヒ講述ス可キナリ

一、義務組成ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決
 義務組成ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホス可キ効果ニ付テハ債權擔保編ハ之ヲハ其第七十八條ニ規定シタリ本來債務者間ノ連帶ノ場合ニ於テハ債權擔保編ハ債務者カ義務組成ニ付キ抗辯ヲ爲シ得ルコト、其抗辯ニ付キ有リタル判決ノ効果ノコトハ各々別條ニ規定シタルモ債權者間ノ連帶ノ場合ニ於テハ債務者カ義務組成ニ付キ抗辯ヲ爲スヲ得ルヲ當然ノコト、ナシテ只ニ其抗辯ニ付キ有リタル判決ノ効果ノミヲ規定シ

對人擔保法

連帶債權者間ノ連帶債權者間ノ效力 訴追ヲ爲シタル連帶債權者ト債務者トノ間ニ基本抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホス可キ効果

タルナリ而シテ此規定ノ生スル所以ハ他ナラス連帶債權者ハ相互ニ代理ヲ爲スモノタレハナリ但書ニ於テ訴訟ニ其名ヲ出ダサハリシ者ニ對シテモ亦同シトアルハ不用ノ規定タルコト論ヲ俟タス何トナレハ連帶債權者ハ相互ニ代理ヲ爲ストノ原則ヨリ生スル自然ノ結果ナレハナリ又第八十條ニ於テ第七十八條ノ規定ニ一ノ例外ヲ示シタリ即チ例ハ債務者カ債權者ノ一人ヨリ強暴ヲ受ケタルカ爲メニ承諾ニ瑕疵アル場合又債權者ノ一人カ債務者ト夫妻ノ關係アル場合等ニ於テ其事實ニ依リ債務者カ抗辯ヲ爲シ之ニ對シテ與ヘラレタル判決ハ利害共ニ他ノ債權者ニ及ホスコトナキナリ是レ固ヨリ當然ノコトニシテ別ニ説明ヲ俟タスト雖モ前顯ノ法文中他ノ債權者ヲ害セス又之ヲ利セストアルハ他ノ債權者ハ矢張り連帶ニテ有スル債權ノ全額ヲ請求スルコトヲ得ヘシトノ意ナルカ將タ又他ノ債權者ノ有スル自己固有ノ權利ハ利害ノ影響ヲ受ケストノ意ナルカ甚タ分明ナラス今例ヲ以テ此意ヲ明カニセンニ例ハ連帶債權者三人アリ債權ノ全額ハ三千圓ナル場合ニ於テ債務者カ其内ノ一人ニ對シ一身上ノ抗辯ヲ爲シタルコトアリトセンカ

前段ノ意ニ從ヘハ他ノ債權者ハ依然トシテ三千圓ノ債務ヲ請求スルコトヲ得ヘシ後段ノ意ニ從ヘハ抗辯ヲ受ケタル者ノ部分即チ一千圓ヲ控除シタル殘額二千圓ヲ請求スルヲ得ルコトナルナリ而シテ學者概テ前段ノ解釋ニ從フモノ、如シト雖モ余ヲ以テ之ヲ見ルトキハ後段ノ解釋ニ從フ方至當ナルカ如シ何トナレハ債務者連帶ノ場合ニ於テ右ト同一ナル抗辯アリタルトキハ他ノ債務者ハ抗辯ヲ爲シタル者ノ擔分ヲ除キタル殘餘ニ付キ責任アルモノナレハ債權者連帶ノ場合ニ於テモ同一理ナルヘキコトノ至當ナルヲ信スレハナリ

二、義務消滅ノ原因ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決

義務消滅ニ基キタル抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホスコキ効果ニ付テハ債權擔保編ハ之ヲ第七十九條ニ規定シタリ即チ知ル可シ連帶債務者ニ對シテ義務消滅ノ原因ニ付キ債務者ノ爲スヲ得ヘキ抗辯ハ辨濟及相殺ノ二原因ニ止マリ其他ノ原因ニ至リテハ債務者カ連帶債權者ニ對シテ爲スコトヲ得サル抗辯ナルヲ蓋シ連帶債權者ハ權利ノ行使及保存ニ付テ

對人擔保法

連帶債權者間ノ連帶債權者間ノ連帶ノ効力 訴追ヲ爲シタル連帶債權者ト債務者トノ間ニ基本抗辯ニ付キ有リタル判決ノ他ノ債權者ニ及ホスコキ効果

ノミ相互ニ代理ヲ爲スモノニシテ而シテ辨濟ハ權利ノ行使及保存ニ屬スルモノナリ故ニ連帶債權者ノ一人ニ爲シタル辨濟ハ全部ニ付キ總債權者ニ其効果ヲ及ホス可シ相殺モ亦辨濟ヲ省畧シタルモノナルニ依リ辨濟ト同一ノ効果ヲ生ス可キハ勿論タリ然レトモ其相殺ノ原因ハ債權者ヨリ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケサル前ニ生シタルモノナルヲ要ス可シ何トナレハ訴追又ハ合式ノ要求ヲ受ケタル後ニ在リテハ債務者ハ連帶債權者中ノ何人ニ對シテモ辨濟ヲ爲スノ自由ヲ有セサレハナリ是レ即チ前顯第一ノ場合ニ於ケル規定ナリトス之ニ反シテ更改免除及ヒ混同ナル原因ハ何レモ皆チ連帶債權者ノ權利ノ行使及保存ニ關係ナキノミナラス却テ危害ヲ及ホス者ナルニ依リ是レ等ノ原因ニ付テハ判決ノ效果ヲシテ他ノ債權者ニ及ホスヘキモノニアラス和解ニ付テモ亦同一ナリトス殊ニ是レ等ノ原因ニ至リテハ債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ生スルコトアルモ他ノ債權者ハ之ヲ知ルニ頗ル困難ナリトス是レ即チ前顯第二ノ場合ニ於ケル規定ナリトス其詳細ノコトニ至リテハ財産編ノ講義ニ讓ル可シ

連帶債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ
 爲シタル時効ノ中斷又ハ付遲滯ノ行
 爲若クハ債權者ノ一人ノ利益ニ於テ
 設定シタル時効停止ノ他ノ債權者ニ
 及ホス効果ニ

第五款

連帶債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ
 爲シタル時効ノ中斷又ハ付遲滯ノ行
 爲若クハ債權者ノ一人ノ利益ニ於テ
 設定シタル時効停止ノ他ノ債權者ニ
 及ホス効果

連帶債權者ノ一人カ債務者ニ對シテ爲シタル時効ノ中斷又ハ付遲滯ノ行爲若クハ債權者ノ一人ノ利益ニ於テ設定シタル時効停止ノ他ノ債權者ニ及ホス効果ニ付テハ債權擔保權ハ之ヲ其第八十一條ニ規定シタリ右第一項ノ規定ハ連帶債權者ハ權利ノ保存ニ付キ互ニ代理スルモノタリトノ規則ヨリ當然生スル結果タルニ過キス何トナレハ時効ノ中斷及付遲滯ノ行爲ハ權利ノ保存ニ關スルモノダレハナリ而シテ其二項ノ規定ハ第六十一條第二項ニ債務者ノ一人ニ對シ債權者ノ利益ニ於テ存スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者ノ利益ニ於テ其部分ノ爲メ時効ノ進行ヲ妨ケストノ規定ト同一ノ精神ヨリ出タルモノニシテ只一ハ債務者ノ方ヨリ觀察シ一ハ債權者ノ方ヨリ觀察シタルノ差違アルノミ

對人擔保法

連帶 債權者間ノ連帶 債權者間ノ連帶ノ効力 連帶債權者ノ一人カ
 債務者ニ對シテ爲シタル時効ノ中斷又ハ付遲滯ノ行爲若クハ債權者ノ
 一人ノ利益ニ於テ設定シタル時効停止ノ他ノ債權者ニ及ホス効果

第三節 債權者間ノ連帶ノ終了

余ハ曩キニ債務者間ノ連帶ノ終了ニ二原因ノアルコトヲ述ヘタリ即チ債權者ノ任意ノ拋棄及擔保物ノ毀損又ハ滅失是レナリ然ルニ債權者間ノ連帶ノ終了スル原因ニハ債權者ノ任意ノ拋棄ノ一原因アルノミ蓋シ債權者間ノ連帶モ亦第七十四條ニ規定シタルカ如ク債權者ノ利益ノ爲メニスルモノタレハ其利益ヲ受ク可キ債權者カ自カラ其利益ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキハ勿論ニシテ從テ連帶モ亦終了ニ歸ス可キナリ是レ當然ノコトニ屬スルヲ以テ別ニ説明ヲ俟タサル可シ而シテ此連帶ノ終了スルニ擔保物ノ毀損又ハ滅失ナル一原因ナキ所以ノモノハ他ナラス債權者間ノ連帶ニ在リテハ債務者ノ如ク代位ス可キ場合ノ其性質上有り得ヘカラサルヲ以テナリ殊ニ又債務者間ノ連帶ハ其免除ニ就テ推定ヲ受クルコトアルチ財産編第五百十條ニ規定シタルヨリ從テ之ト撞着ヲ避クルカ爲メニ默示ノ拋棄アルコトヲ認メタレトモ債權者間ノ連帶ハ其免除ニ付キ斯ノ如キ推定ヲ受クルコトナキカ故ニ其連帶ハ成立ト同シク明示ニアラサレハ拋棄シタルモノトナスヘカラス(第八十三條)

右ノ如ク夫レ連帶債權者ハ自己ノ利益タル連帶ヲ拋棄スルコトヲ得ヘク而シテ其拋棄タル連帶債權者ノ總員カ同時ニ之ヲ爲スヲ得ヘキハ勿論其中ノ一人若クハ數人コトモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ連帶ハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク相互ニ代理スルモノタレハ總員ヨリ拋棄ヲ爲ストキハ格別ナルモ左ナキトキハ他債權者ハ其拋棄ノ爲メニ多少利益ニ影響ヲ受ケサルヲ得サルハ當然ノ數ナリサレハ總債權者カ連帶ヲ拋棄シタルトキハ債權者カ總連帶債務者ニ對シテ連帶ヲ拋棄シタルトキト同一ノ効力ヲ生シ是レマテノ連帶債權ハ變シテ連合債權トナリ債權者ノ各自カ債務者ニ對シ自己ノ部分ニ付テノミ債權ヲ有スルコト、ナルモ債權者ノ一人若クハ數人カ連帶ヲ拋棄シタルトキハ其拋棄ヲ爲シタル者ノミ連合債權者トナリ他ノ債權者即チ拋棄ヲ爲サル所ノ債權者ハ此拋棄ヲ爲シタル者ノ部分ニ代テノミ訴ヲ爲シ又ハ辨濟ヲ受クル權利ヲ失フ可キナリ本來連帶債權者ノ一人又ハ數人カ他ノ債權者ノ承諾ヲモ得ス隨意ニ連帶ヲ拋棄スルコトヲ得セシムルハ甚ク不當ナルカ如シ何トナレハ之カ爲メニ拋棄ヲ爲サル所ノ債權者ノ利益ヲ害スルノ結果ヲ生スレハナリ然レトモ此利益タルヤ余カ曩キニ

任意ノ不可分ノ性質及原因ヲ講述スルニ當リテハ豫メ先ツ不可分義務ノ性質ヲ知ルヲ要ス可シ何トナレハ任意ノ不可分ハ不可分義務ノ一種ノ態様ニ外ナラサレハナリ本來不可分義務トハ余カ既ニ述ヘタルカ如ク一部ノ履行ヲ許サ、ル性質ノ義務ヲ云フニ過キスト雖モ其義務ノ不可分ナルニハ義務ノ目的カ有形的ニモ無形的ニモ一部ノ履行ヲ爲シ得サル場合ト義務ノ目的ハ可分ナルモ當事者ノ意思ヲ以テ一部ノ履行ヲ許サ、ル場合トノ二様アリテ存シ從ヒテ不可分義務ニハ性質上ノ不可分及任意上ノ不可分ナル二種ノ區別ヲ生ス財産編カ其第四百四十一條ニ

複數ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ間ニモ債務者ノ間ニモ不可分ナリ
 第一、負擔スル目的ノ性質ニ因リテ一分ノ履行カ形體上及智能上不能ナルト
 第二、義務カ性質ニ因リテ可分ナルモ當事者ノ明示ノ意思又ハ其期望シタル
 目途其他ノ事情ヨリ顯ハル、意思カ一分ノ履行ヲ許サ、ルトキ
 ト規定シタルハ即チ不可分ノ義務ニハ前述二種ノ區別アルコトヲ示シタルナリ

然ルニ性質上不可分ノ義務ハ數人ノ債務者アルトキハ債權者ノ爲メ又數人ノ債權者アルトキハ各債權者ノ爲メ利益ナルコト疑フヘカラスト雖モ畢竟其義務ノ目的自身カ一部ノ履行ヲ爲スヲ得サルヨリ當然生スル結果タルニ過キサレハ之ヲ以テ債權ノ擔保ト謂フヘカラストハ勿論ナリ然ラハ則チ債權ノ擔保タルヘキ不可分義務ハ任意ノ不可分ニ限ルヘキハ明カナリト謂ツ可シ蓋シ任意ノ不可分ハ義務ノ目的可分ナルモ當事者ノ利益ノ爲メニ其意思ニ因リテ不可分トナシタルモノダレハナリ然レトモ同シク任意ノ不可分中ニテモ特ニ債權ノ擔保ノ爲メニ不可分義務ヲ約シタルモノト然ラサルモノトアリ而シテ本法規定スル所ノ任意ノ不可分ハ即チ任意ノ不可分中特ニ債權ノ擔保ノ爲メニ約シタルモノノミニシテ其他ノ任意ノ不可分ハダトヒ債權ノ擔保タルモ債權擔保編ノ規定スル所ニアラサルナリサレハ前顯財産編第四百四十一條ノ規定ニ係ル任意ノ不可分ノ如キ又其第四百四十二條ノ規定ニ係ル受方ノミニノ任意不可分ノ如キ何レモ皆ナ本法ニ規定スル所ノ任意ノ不可分ニアラサルナリ畢竟右兩條ノ規定スル所ハ特ニ債權ノ擔保ノ爲メニ任意ノ不可分ヲ約シタル場合ヲ想像シタルモノニ非サレハ

對人擔保法 任意ノ不可分 任意ノ不可分ノ性質及原因

ナリ而シテ此任意ノ不可分タル連帶ト殆ト其性質ヲ同フスルモノナルカ故ニ第
 八十八條ニ規定セルカ如ク連帶ヲ阻却セサル限リハ不可分アレハ必ス連帶ノ存
 在スルモノトハナスナリ(第八十六條)然レトモ債務者ノ負擔ニ於テ不可分ヲ設定
 シタレハトテ債權者ノ利益ニ於テモ不可分ノ存立スルモノニアラス又債權者ノ
 利益ニ於テ不可分ヲ設定シタレハトテ債務者ノ負擔ニ於ケル不可分ノ存立スル
 モノニアラスシテ其之ヲ存立セシムルニハ必ス別段ノ明示ヲ要スヘキハ勿論
 ニシテ殆ト明文ヲ要セサルナリ(第八十七條)借又債權擔保編ハ所謂任意ノ不可分
 ナ生スル原因ニ付キ之ヲ其第八十六條第二項ニ規定シタリ是レ固ヨリ當然ノコ
 トニシテ別ニ説明ヲ要セサル可シ而シテ必ス明示ヲ要スル所以ノモノハ不可分
 タル債務者ノ任ヲシテ重劇ナラシムルモノタレハナリ

第二章 任意ノ不可分ノ効力

本法ニ所謂任意ノ不可分ノ性質ハ余既ニ之ヲ前章ニ述ヘタリ然リ而シテ任意ノ
 不可分ノ効力ニ付テハ債權擔保編ハ之ヲ第八十八條乃至第九十一條ニ規定シタ
 リ即チ第八十八條ノ規定タル第八十六條第一項ノ但書ニ受方又ハ働方ノ連帶ニ

任意ノ不可分ノ効力

併合シ又ハ併合セサルコト有リトノ規定ト符合スルモノニシテ該但書ハ則チ第
 八十八條ノ規定ヲ豫想シタルモノナルコト明カナリ故ニ明カニ連帶ヲ阻却セサ
 ルトキハ第八十六條ノ但書ニ所謂連帶ノ併合シタル場合ナリ之ニ反シテ明カニ
 連帶ヲ阻却シタルトキハ連帶ノ併合セサル場合ニシテ要スルニ本條ト右ノ但書
 トハ主從ノ關係アルナリ即チ任意ノ不可分ハ明示ニテ連帶ヲ阻却セサルトキハ
 余カ既ニ述ヘタルカ如ク連帶ト其性質殆ト同一ニシテ働方ノ不可分ナルトキハ
 一人ノ債權者ノ如ク債權者ノ各自カ債務ノ全部ニ付キ履行ヲ求ムルコトヲ得ヘ
 ク又受ケ方ノ不可分ナルトキハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シ只一人ノ債務者ノ
 如ク債務ノ全部ニ付キ履行ヲ求ムルコトヲ得ヘキナリ然ラハ即チ明示ニテ連帶
 ナ阻却シタルトキハ連帶ヨリ生スル効力ヲ生スルコトナキハ勿論ナリ然リ而シ
 テ第九十條ノ規定ハ蓋シ擔保タルノ効力ハ不可分ヨリ連帶ノ方大ナルヲ以テ擔
 保ノ効力ノ大ナルモノニシテ消滅セハ其小ナルモノハ從テ消滅ス可キモ小ナル
 モノニシテ消滅スルモ大ナルモノハ消滅セストノ精神ナル可シ然ルニ學者往々
 此規定ノ精神ヲ誤解シ不可分ヲ以テ連帶ヨリ効力ノ大ナルモノトナシ小ナル連

對人擔保法 任意ノ不可分 任意ノ不可分ノ効力

帶ヲ拋棄スル程ナレハ大ナル不可分ヲモ拋棄スルノ意アリ而シテ大ナル不可分
 ヲ拋棄スルハ小ナル連帶ヲ保存スルノ意アルモノトノ推定ヨリ來リタル者トナ
 セリ論理ヲ誤マルノ甚シキモノト謂フヘシ又第八十九條ノ規定タル連帶ノ場合
 トハ稍々差異アルコトニ注意セサルヘカラス即チ余カ曩キニ述ヘタルカ如ク連
 帶ノ場合ニ在テハ連帶債務者ノ一人ニ對シテ債權者ノ利益ニ於テ時効ヲ中斷ス
 ルトキハ他ノ債務者ニモ其効果ヲ及ホスモ時効ヲ停止スル原因アルトキハ他ノ
 債務者ニ對シテ其部分ノ爲メニ時効ノ進行ヲ妨ケス(第六十一條)又連帶債權者ノ
 一人カ債務者ニ對シテ時効ヲ中斷スルトキハ他ノ債權者ヲ利スルモ債權者ノ一人
 ノ利益ニ於ケル時効ノ停止ハ其部分ニ限り其一人ノミチ利ス(第八十一條)然レト
 モ前項第八十九條ノ規定ハ時効ノ中斷ノミニ付テハ連帶ノ場合ト同一ノ効果ア
 ルモノトナスモ時効ノ停止ニ付テハ全ク反對スルモノナリ換言セハ債務者ノ一
 人ニ對シ又ハ債權者ノ一人ノ權利ヨリ生スル時効停止ノ原因ハ他ノ債務者若ク
 ハ他ノ債權者ヲ利シテ時効ノ進行ヲ停止スルナリ蓋シ時効中斷ノ原因ニ付テハ
 連帶ト其結果ト同ウシ時効ノ停止ニ付テハ連帶ノ場合ト其効果ヲ異ニスル所以
 六

ハ不可分ノ性質分割スヘカラサルヲ以テナリ即チ中斷又ハ停止ノ原因ノ爲メ債
 權ノ一部カ保存セラレ他ノ一部ハ消滅スルカ如キコトハ不可分ノ性質上有ル可
 カラサレハナリ又本法ニハ別ニ規定ナキモ相殺ノ場合ニ於テモ連帶ノ場合ト大
 ニ差異アルヲ知ル可シ即チ連帶ノ場合ニ在リテハ一部ノ相殺ヲ許スコトアリト
 雖モ不可分ノ場合ニ在リテハ決シテ之ヲ許サ、ルナリ何トナレハ一部ノ相殺ハ
 即チ一部ノ辨濟ニシテ一部ノ辨濟ハ不可分ノ許サ、ル所ナレハナリ其他連帶ノ
 場合ニ在リテ一部ノ履行ヲ許ストキハ之ヲ以テ其部分ニ於ケル抗辯ノ理由トナ
 スコトヲ得ヘシト雖モ不可分ノ場合ニ在リテハ決シテ之ヲ許サ、ルナリ
 已上述ヘタル所ハ即チ特ニ擔保ノ爲メニ任意ノ不可分ヲ約シタル場合ニ於ケル
 特別ノ規定ナリ而シテ債權擔保編ノ不可分モ正サシク財產編ニ所謂不可分義務
 ノ一種ニシテ只單ニ擔保ノ爲メニ設定セラレタルモノタルノ差異アルニ過キサ
 レハ共通ノ事項ハ之ヲ財產編ニ讓ルヲ以テ當然ナリトス然ルニ債權擔保編ハ第
 九十一條ノ規定ヲ置キ特ニ此場合ニ於テモ財產編ノ規定ヲ適用スルコトヲ明示
 シタリ然レトモ是レ等ノコトニ關シテハ余カ茲ニ一々説明スルノ必要ナキヲ以

對人擔保法 任意ノ不可分 任意ノ不可分ノ効力

14
467

對人擔保法(完結)

テ之ヲ省畧ス可キナリ

四〇六

二

八

2/法
28

終

